

# 2022年度決算の概要

(2022年4月1日～2023年3月31日)

**ご説明資料**

**2023年4月28日**



**山陽特殊製鋼株式会社**



<https://www.sanyo-steel.co.jp/>

# 目次

## 1. 2022FY決算および2023FY業績予想

損益の概要  
事業環境  
2023FY業績予想  
配当等

## 2. EV化の進展に向けて

## 3. 2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組み

## 4. 決算および業績予想の詳細

業績推移(四半期)、セグメント別損益、  
貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書、D/Eの推移  
経常利益の変化要因(2021FY→2022FY、2022FY前回予想→2022FY、  
2022FY3Q→2022FY4Q、2022FY→2023FY予想)  
Ovakoの状況、SSMIの状況

## 5. トピックス

## 6. 参考資料

主要市場動向  
業績推移(年度)、設備投資・減価償却費の推移  
損益の詳細等

# **1. 2022FY決算および 2023FY業績予想**

# 損益の概要 (対2021FY、前回予想2023/2/1公表)

## 1. 2022FY業績概要

**連結経常利益289億円(前期比+72億円)**

**Ovakoの一過性影響を除く連結経常利益は193億円となり実質的には前期並み**

- ・原燃料価格上昇の影響があったものの、鉄スクラップやエネルギーのサーチャージ適用に伴う販売価格の上昇・構成の高度化によるマージンの改善、一過性影響を含むOvakoの収益改善により前期比増収増益。

(参考) 2022FYの売上数量・・・Ovakoは2022/4～2023/3、SSMIは2022/1～12

	2022FY(A)	2021FY(B)	増減(A)-(B)	前回予想(C)	増減(A)-(C)
売上数量(千t)	1,607	1,995	-387	1,585	+22
内、当社単独	894	1,002	-108	894	-0
内、Ovako	608	1-3月 178 4-3月 696 } 873	-265	586	+22
内、SSMI	105	119	-14	105	+0

## 2. 損益計算書 (対2021FY、前回予想2023/2/1公表)

(単位:億円、%)

	2022FY(A)	2021FY(B)	増減(A)-(B)	前回予想(C)	増減(A)-(C)
売上高	3,938	3,633	+306	3,870	+68
営業利益	285	214	+71	220	+65
経常利益	289	217	+72	220	+69
ROS	7.3	6.0	+1.3	5.7	+1.6
内、当社単独	102	99	+3	105	-3
内、Ovako	211	1-3月 25 4-3月 109 } 134	+77	140	+71
内、SSMI(注1)	▲2	4	-6	▲2	+0
内、のれん償却費	▲29	1-3月 ▲7 4-3月 ▲27 } ▲34	+4	▲29	-0
税後利益(注2)	207	153	+55	160	+47
のれん償却費を除く税後利益	237	186	+50	189	+48

(注1) SSMIは、2022年6月にMSSSより社名変更 (注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

# 事業環境

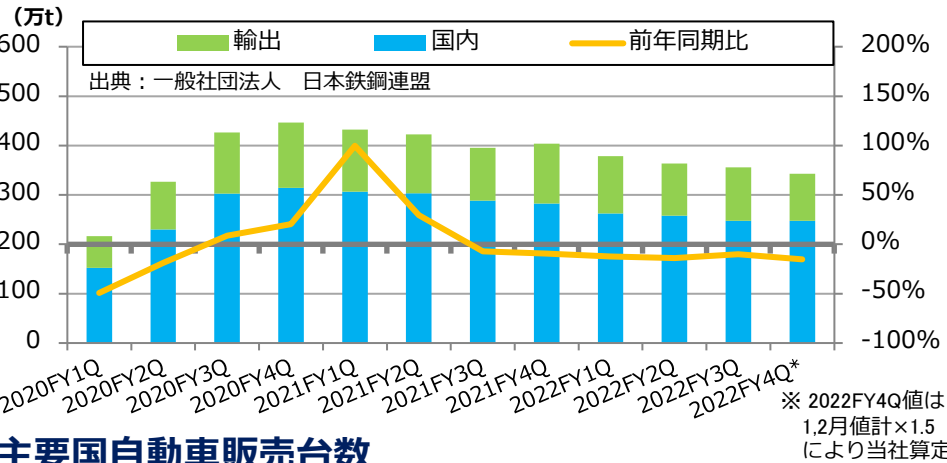
## 需要動向

半導体不足などによる自動車減産長期化に加えサプライチェーンの在庫調整の影響が継続、建設・産業機械向けも調整継続。自動車生産回復期待の一方で、インフレ影響が懸念。

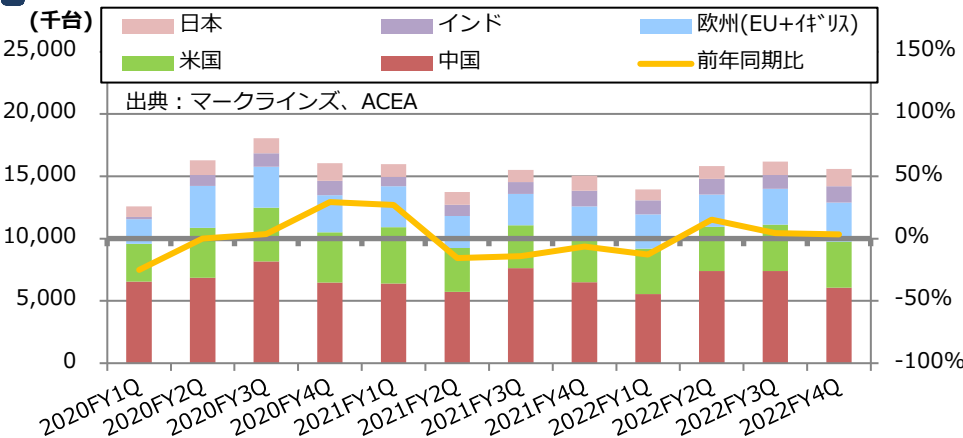
## 原燃料価格

円安の進行は一段落したものの、原料価格は依然として高位な水準。エネルギーコストは2022FY4Qでピークアウトし、2023FYにかけて低下の見通し。

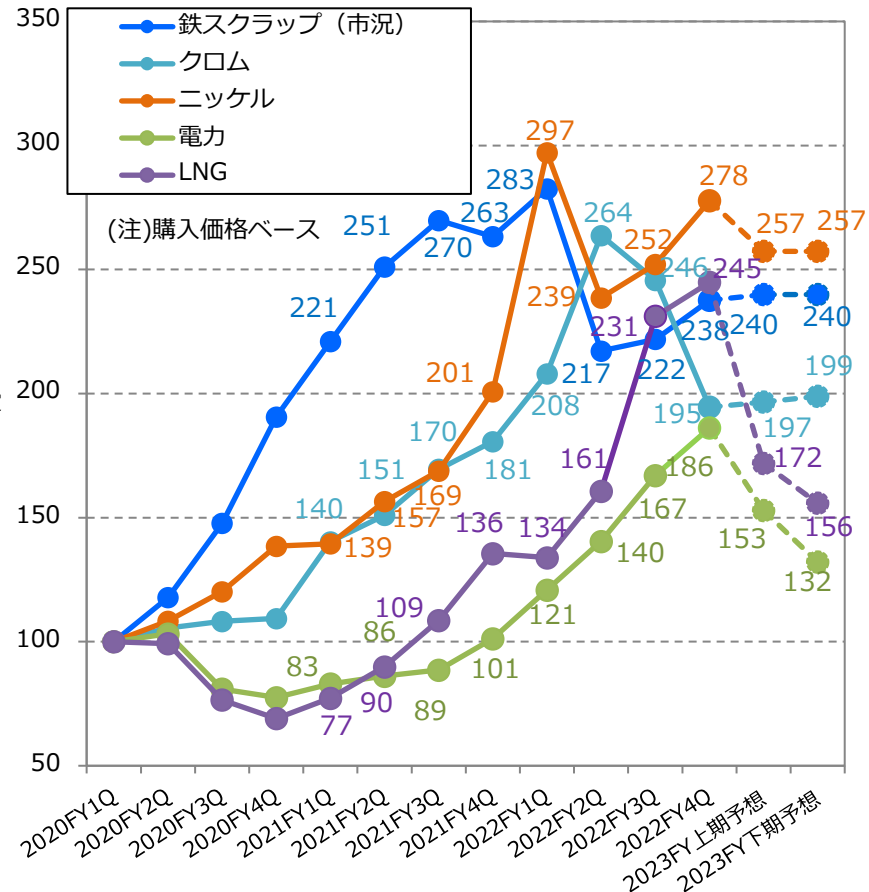
## 特殊鋼受注数量



## 主要国自動車販売台数



## 原燃料価格推移 (2020FY1Qを100とした指数表示)

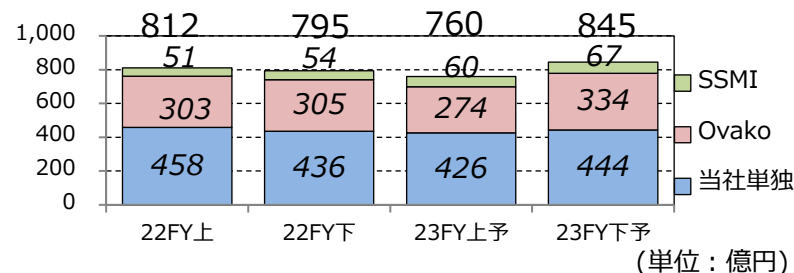


# 2023FY業績予想 (2023/4/28公表)

## 1. 2023FY見通し

- ・連結経常利益200億円(前期比-89億円、Ovakoの一過性影響除くと+7億円)  
売上数量は、前期並みを見込むものの、前期のOvakoの一過性影響がはく落。原燃料価格が高位で推移し、諸資材等へのインフレ影響も予想される中、コストダウン、サーチャージの適用によりマージンを確保し、実質的に前期並みの経常利益200億円を目指す。
- ・適正マージンの確保、海外事業の収益力の強化に努め、事業基盤の強化を図る。

(参考)売上数量推移(千t/半期)



## 2. 2023FY業績予想

	23FY 上期予想 (A)	23FY 下期予想 (B)	2023FY予想 (C)=(A)+(B)		2022FY(D)		増減(C)-(D)	
			金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,860	2,080	3,940	100.0	3,938	100.0	+2	+0.0
営業利益	62	138	200	5.1	285	7.2	-85	-29.8
経常利益	63	137	200	5.1	289	7.3	-89	-30.7
内、当社単独	72	78	150	7.7	102	5.3	+48	+46.9
内、Ovako	27	73	100	6.0	211	12.3	-111	-52.7
内、SSMI	3	4	7	2.7	▲2	-	+9	-
内、のれん償却費	▲14	▲14	▲29	-	▲29	-	+0	-
税後利益(注2)	40	100	140	3.6	207	5.3	-67	-32.5
のれん償却費を除く税後利益	54	114	169	4.3	237	6.0	-68	-28.6
売上数量(千t)	760	845	1,605	133.8 /月	1,607	133.9 /月	-2	-0.2 /月
内、当社単独	426	444	870	72.5 /月	894	74.5 /月	-24	-2.0 /月
内、Ovako	274	334	608	50.7 /月	608	50.7 /月	-	- /月
内、SSMI	60	67	127	10.6 /月	105	8.8 /月	+22	+1.8 /月

(注1) SSMI : 1月~12月の数値

(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

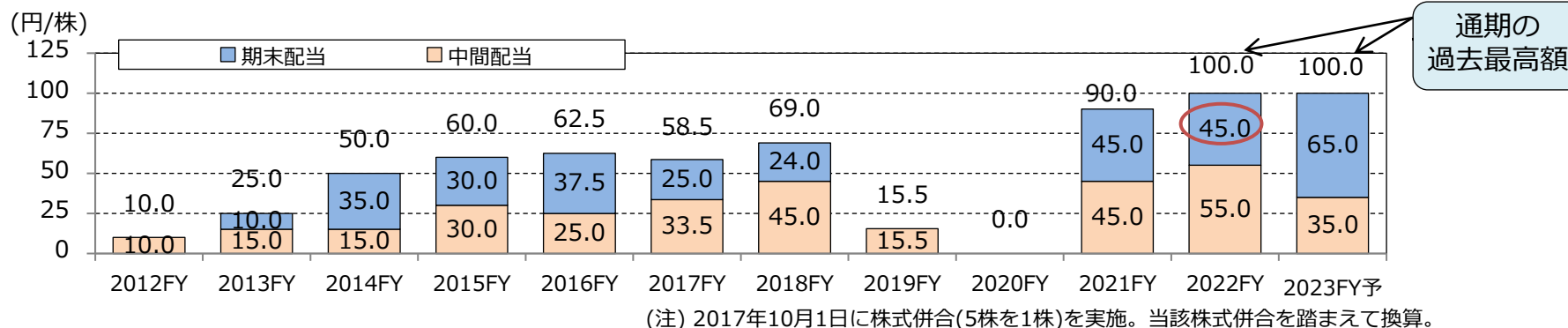
【予想の主要前提(2023年4月以降)】

- ・鉄スクラップ(購入) 50.0千円/t (姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 90\$/BL ・為替 130円/\$、140円/€

# 配当等

## 2022FY配当および2023FY配当予想

			22FY 中間	22FY前回予想 23/2/1	22FY決定額	23FY予想	
				通期	通期	中間	通期
1株当たり純利益	A	円/株	181.2	293.7	380.7	73.4	256.9
のれん償却費を除く 1株当たり純利益	B	円/株	207.5	346.9	434.4	99.1	310.2
1株当たり配当金	C	円/株	<b>55.0</b>	<b>90.0</b>	<b>100.0</b>	<b>35.0</b>	<b>100.0</b>
配当性向	C/B	%	26.5	25.9	23.0	35.3	32.2
	C/A	%	30.4	30.6	26.3	47.7	38.9



＜配当方針＞ 配当性向および「企業価値向上」のための投資等への所要資金などを勘案  
のれん償却費を除く1株当たり当期純利益に配当性向 30%程度を乗じた金額を配当額とする

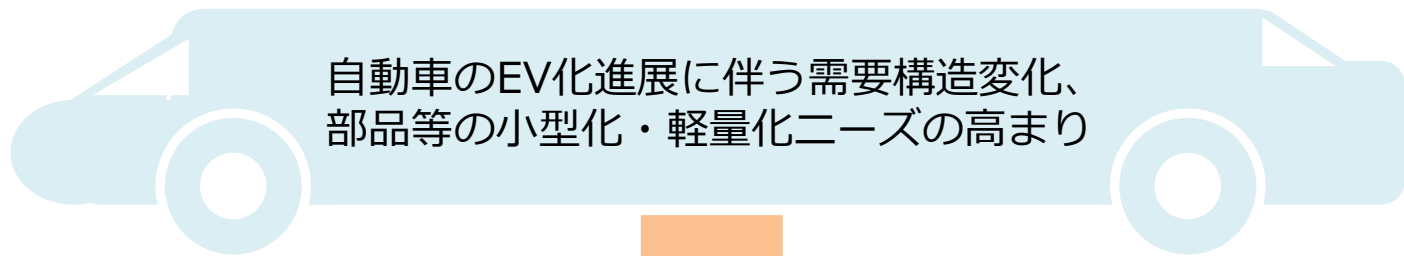
## PBR向上に向けて

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、現状分析を実施しております。  
取組みがまとまり次第、速やかに開示いたします。

## 2 . EV化の進展に向けて



# EV化：進展の影響と当社対応①



自動車のEV化進展に伴う需要構造変化、  
部品等の小型化・軽量化ニーズの高まり



自動車1台当たりの特殊鋼  
使用原単位の減少  
(エンジン・トランスミッション)

- ・電動化に伴う当社の高信頼性特殊鋼への  
ニーズの高まり
- ・部品の小型化・軽量化に貢献する特性を持つ  
当社特殊鋼製品の需要増

## CASE関連

eAxle減速機に好適、  
低ひずみで静粛性に貢献する  
**省合金型高強度鋼**  
浸炭に替わる硬化処理を実現  
**高硬度高靱性鋼**  
優れた粒度特性を維持する  
**高温迅速浸炭用鋼**  
高強度化する素材に適合する  
**ブランド工具鋼 等**

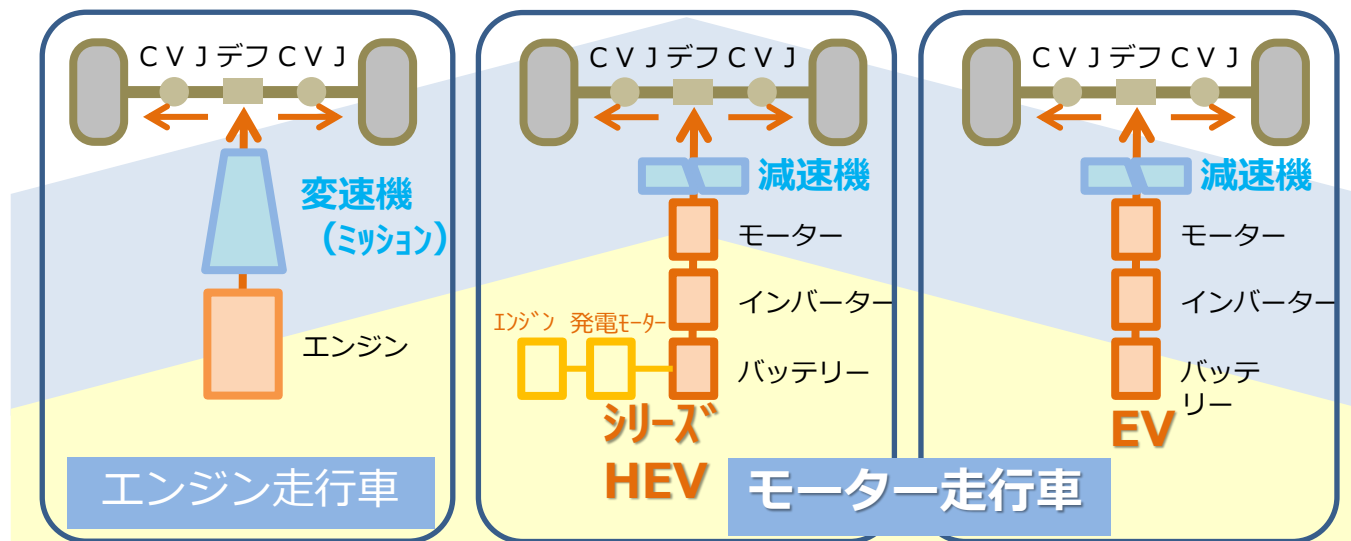
(注) CASE : Connected (コネクテッド)、Autonomous (自動運転)、  
Sharing (シェアリング)、Electric (電気自動車)の頭文字をとった造語



- ・強みである高纯净度鋼を軸に、社会・産業構造の変化に伴う  
新たな顧客要求や環境課題への的確に対応
- ・需要家との連携強化によるサプライチェーン競争力強化

# EV化：進展の影響と当社対応②

## 自動車パワートレインの変化とニーズ



エンジン走行（エンジン－変速機型）

⇒モーター走行（モーター－減速機型）への転換に伴い生じるニーズ

- 静粛性の向上：ギヤ精度向上に寄与する鋼材開発
- 電費の向上：小型軽量設計に寄与する高耐久性鋼の開発

# EV化：当社開発鋼のご紹介

## 開発ニーズ

軸受・ギヤの  
要求性能

### 安全・快適性

居住空間確保

バイ・ワイヤ

### カーボン ニュートラル

電費向上

車両小型化

モーターへの適合

### 経済性

部品工程削減

リサイクル性

素材調達性

小型軽量  
化設計

潤滑油の  
低粘度化

静粛化  
対応

希少元素  
不使用

加工性  
向上

鍛造・熱処理  
・被削性

省合金  
設計

## 当社開発鋼の特徴

### ■ 省合金型高強度鋼

#### ECOMAX シリーズ

- ✓ 低熱処理ひずみ(静粛化)
- ✓ 低粘度潤滑への適合
- ✓ 熱処理簡略化に寄与



CASE全般に適合

### ■ 超高清浄度鋼

#### SNRP、SURP鋼

- ✓ 優れた耐久性



小型軽量化に寄与

### ■ 高硬度高靱性鋼

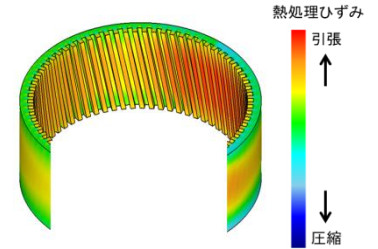
#### TOUGHFIT™

- ✓ 硬度と靱性の両立



ガス浸炭処理の省略  
(処理時間短縮、  
CO<sub>2</sub>排出量削減)

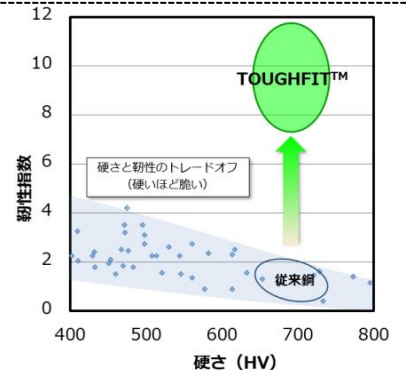
ベースとなる研究成果の一例



- 熱処理変形  
シミュレーションの深化



- 超高清浄度鋼精錬技術
- 清浄度評価技術

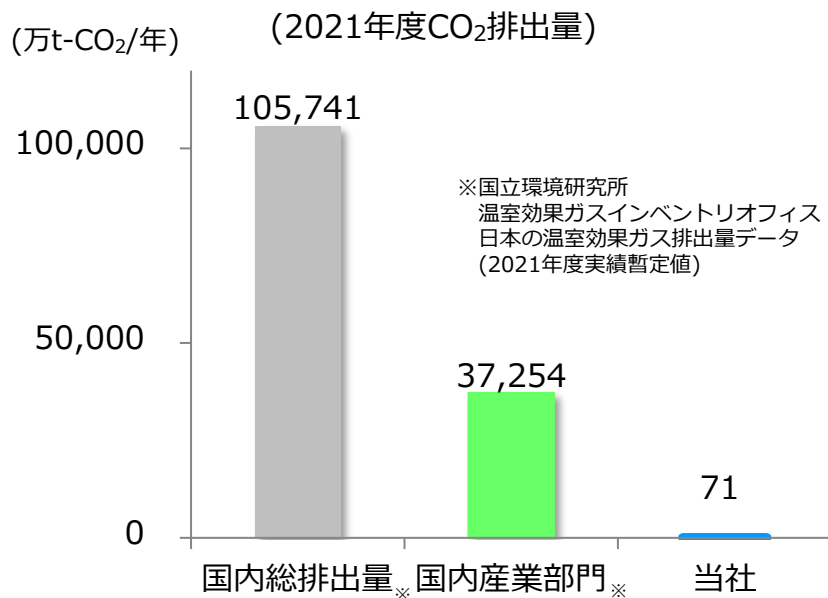


(注) バイ・ワイヤ：アクセルやブレーキなどの制御を、従来の機械式制御に換わり、電気信号で制御する方式

# **3. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み**

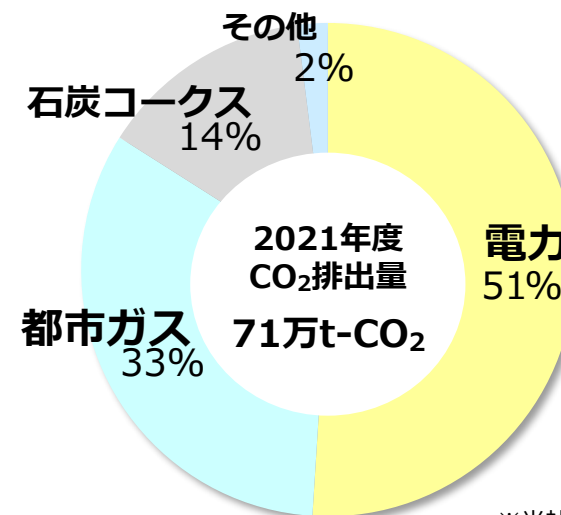
# 当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

## CO<sub>2</sub>排出量における当社の位置づけ



- 再生資源である鉄スクラップを主原料として特殊鋼を製造する当社のCO<sub>2</sub>排出量は、国内産業部門の0.2%程度

## 当社のCO<sub>2</sub>排出量内訳



※当社単独(Scope1+2)

- 当社のCO<sub>2</sub>排出の80%以上が電力と都市ガス

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO<sub>2</sub>排出削減を目指す

### GXリーグ基本構想への賛同

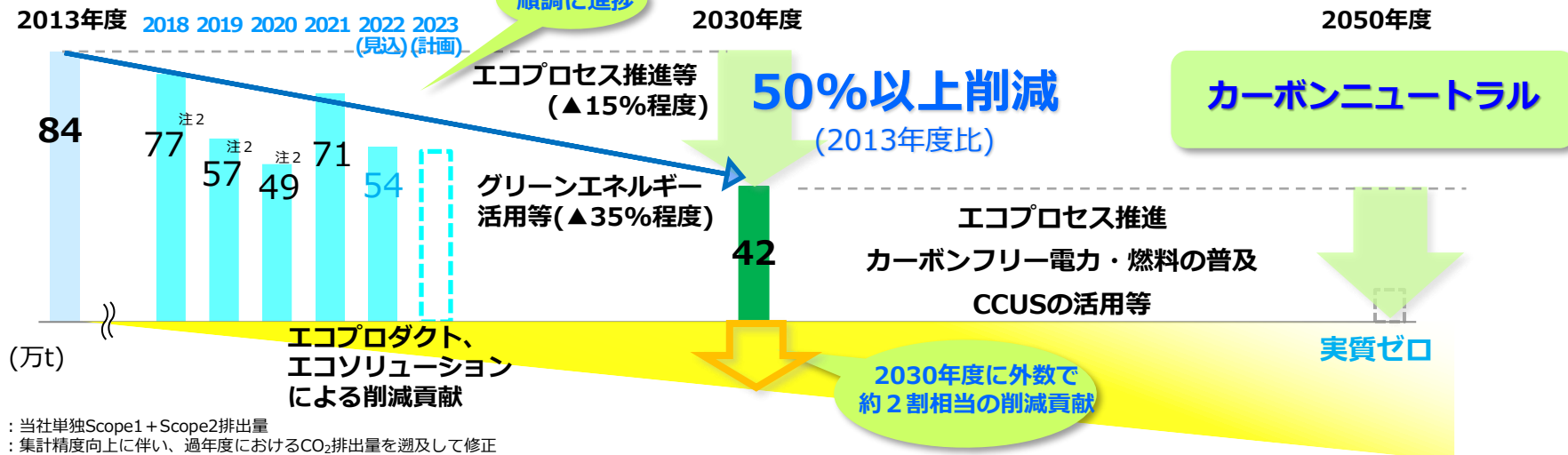
GXリーグとは、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、GX(グリーントランスフォーメーション)への挑戦を行うプレイヤーと共に、経済社会システム全体の変革のための議論と新たな市場の創造のための実践を行う場として設立されたもの。

当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現される経済社会システム全体の変革を目指す「GXリーグ基本構想」に賛同。



# 2050年に向けた当社のロードマップ

【当社CO<sub>2</sub>排出量注1】



注1：当社単独Scope1+Scope2排出量

注2：集計精度向上に伴い、過年度におけるCO<sub>2</sub>排出量を遡及して修正

注3：各年度の排出量は、契約電力会社の電力排出係数（温室効果ガス排出量算定用）より算出

## エコプロセス



- リジエネバーナーを  
採用した省エネ加熱炉

製造現場を中心とした全社の  
省エネ対策やエネルギー効率  
を高める製造技術開発を推進

## グリーンエネルギー活用



カーボンフリー電力や脱化石  
燃料、自然エネルギーの活用

※2022年度から再エネ由来電力の  
一部活用を開始

## エコプロダクト



- 長寿命風力発電用  
軸受鋼の開発

製品を使用する段階でCO<sub>2</sub>排出  
削減に貢献する商品や、需要  
家のエコプロセスに貢献する  
商品の開発・供給を推進

## エコソリューション



- 海外グループ会社  
への技術展開

エネルギー原単位削減に寄与  
する省エネや生産性向上技術  
をOvako、SSMI等の海外グ  
ループ会社に展開

# エコプロダクトによるCO<sub>2</sub>排出量削減への貢献

当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO<sub>2</sub>排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

## 長寿命軸受鋼

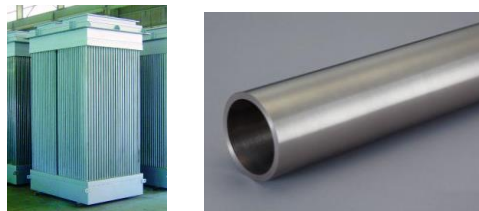


耐久性・信頼性向上による  
部品の小型・軽量化



長寿命化による  
故障率低減・メンテフリー化

## 耐熱ステンレス鋼管



高強度化による  
熱回収効率向上



高耐食性化による  
ごみ発電高効率化

## 高硬度高靱性鋼



新成分+新熱処理技術による  
部品硬化熱処理負荷の軽減



- 当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO<sub>2</sub>排出削減貢献を目指す
- 今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく

# 欧州子会社Ovakoの取り組み

## 世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功

### カーボンフリー水素プラントの建設に着手

#### SBT(目標設定)をコミット

- ※ SBT (Science Based Targets)  
パリ協定が求める水準と整合した、5年~10年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと

#### 特殊鋼製造プロセスで排出するCO<sub>2</sub>を 2015年比57%削減

### 2022年1月から カーボンニュートラルに移行

#### 自社の製造プロセスにおける CO<sub>2</sub>排出を実質ゼロに

- ✓ カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO<sub>2</sub>排出量を相殺
- ✓ 気候サーチャージを適用

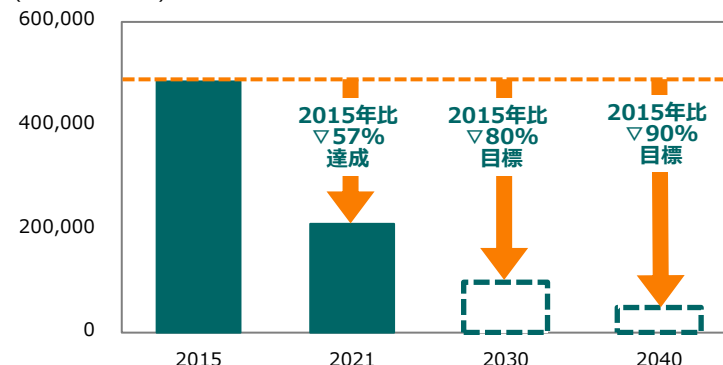
#### カーボンフリー水素プラント稼働予定

#### 顧客との協同取り組み事例

- SKFと協同し、CO<sub>2</sub>排出量90%減の軸受生産を達成
- Volvoの温室効果ガス ネットゼロ自動車製造プロジェクトへ参画

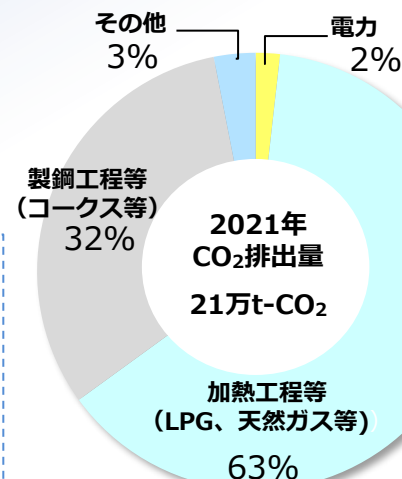
## OvakoのCO<sub>2</sub>排出量(Scope1+2)ロードマップ

(Total CO<sub>2</sub>e ton)



Ovako SUSTAINABILITY REPORT 2021をもとに作成

## OvakoのCO<sub>2</sub>排出量内訳



2020年  
4月

2021年  
6月

2021年

2022年  
1月

2023年  
9月

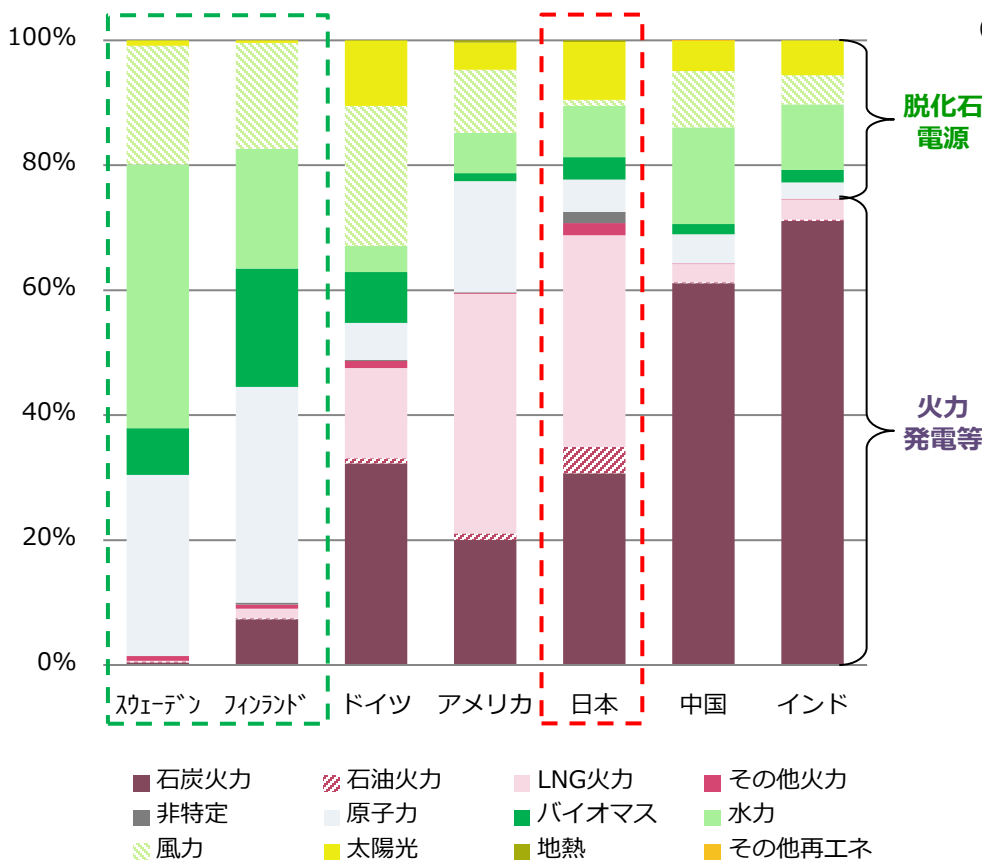




# 各国の電源構成と産業用電力価格

## ■ 電源構成(2022年)

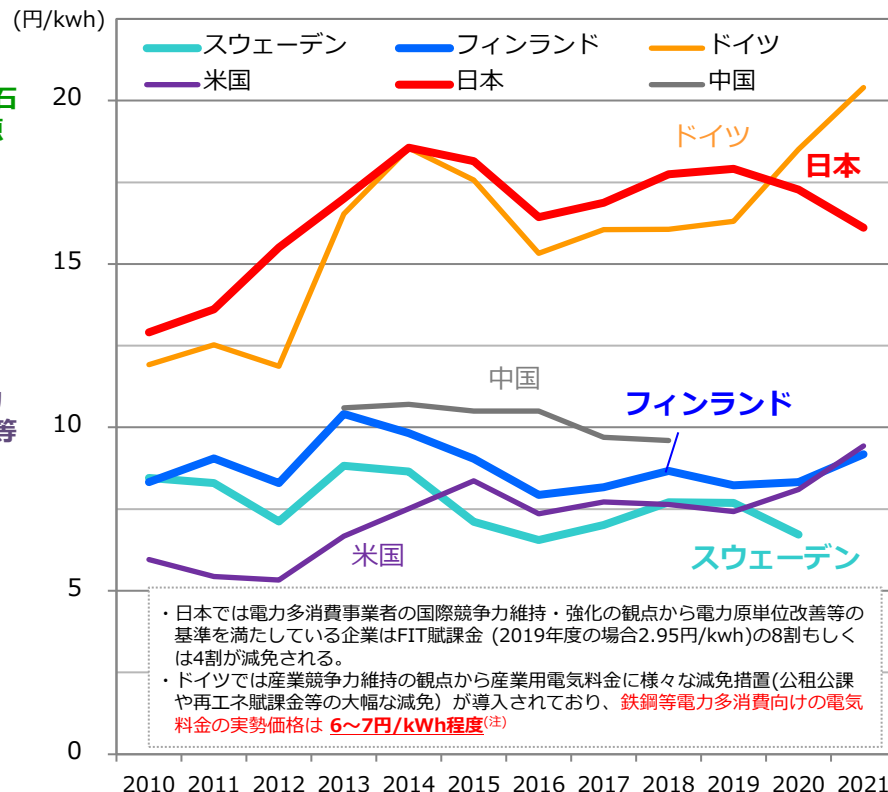
Ovakoの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

## ■ 産業用電力価格の推移

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度



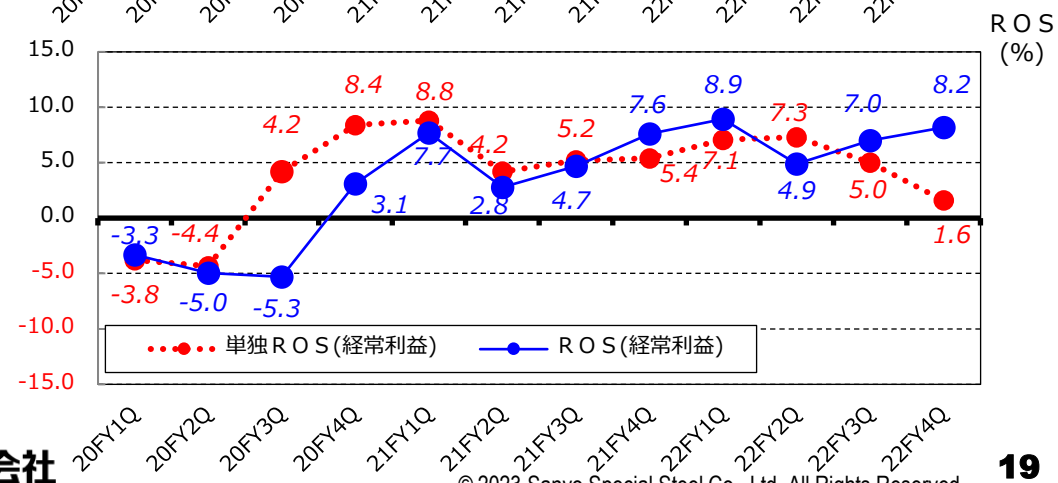
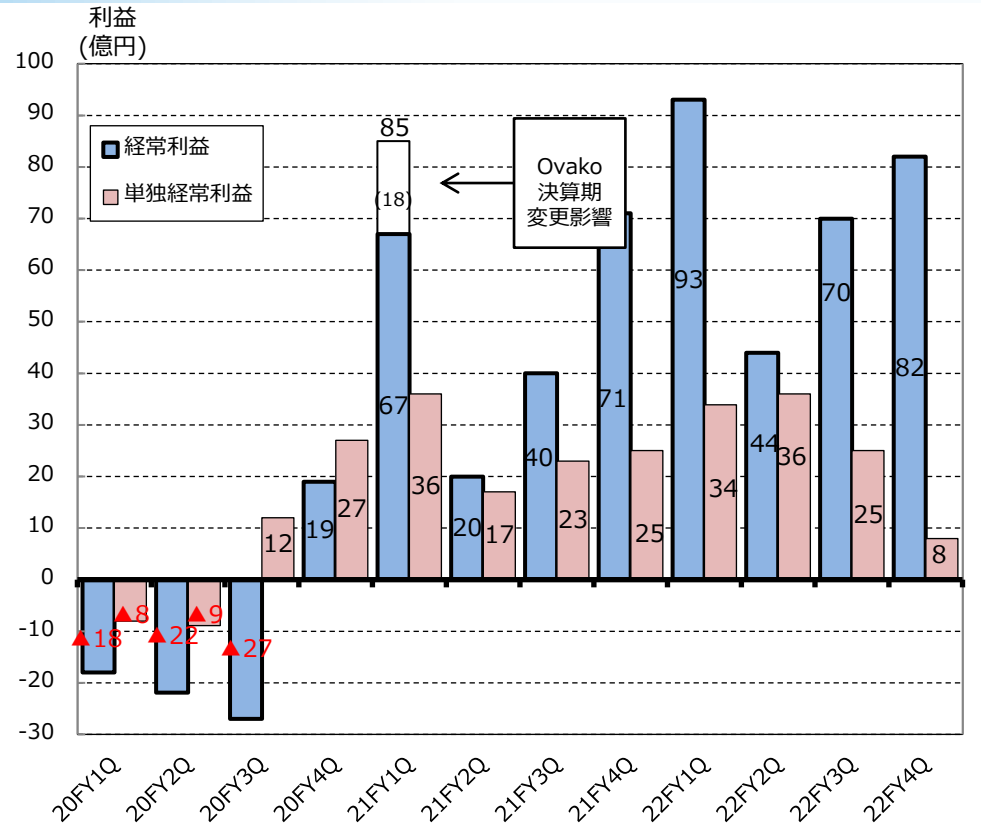
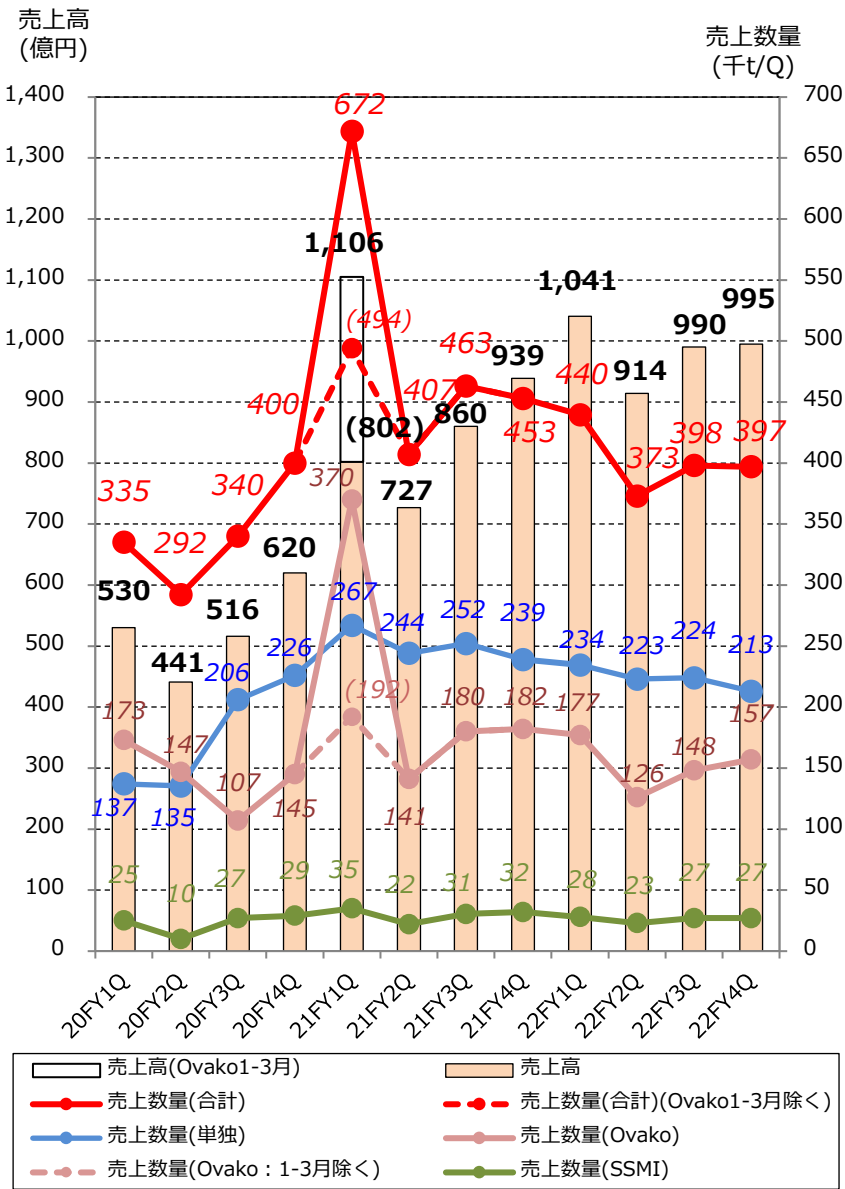
・日本では電力多消費事業者の国際競争力維持・強化の観点から電力原単位改善等の基準を満たしている企業はFIT賦課金(2019年度の場合2.95円/kWh)の8割もしくは4割が減免される。  
 ・ドイツでは産業競争力維持の観点から産業用電気料金に様々な減免措置(公租公課や再エネ賦課金等の大幅な減免)が導入されており、鉄鋼等電力多消費向けの電気料金の実勢価格は **6~7円/kWh程度**(注)

※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成

(注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

## **4. 決算および業績予想の詳細**

# 業績推移(四半期)



## セグメント別損益

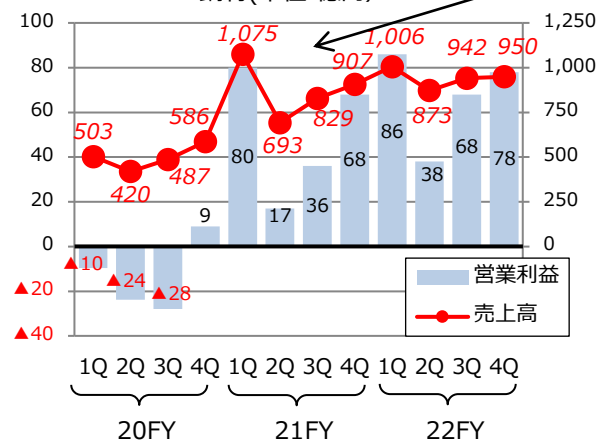
(単位：億円、%)

	2022FY(A)			2021FY(B)			対前年同期 (A) - (B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	3,771	270	7.2	3,503	201	5.8	+268	+68	+1.4
粉末	53	10	18.9	46	8	18.0	+8	+2	+0.9
素形材	199	4	1.8	180	4	2.0	+19	+0	-0.2
小計	4,022	284	7.0	3,728	213	5.7	+294	+70	+1.3
その他	14	0	2.2	11	0	2.4	+3	+0	-0.3
調整額	▲98	1	-	▲107	1	-	+8	+0	-
連結計	3,938	285	7.2	3,633	214	5.9	+306	+71	+1.3

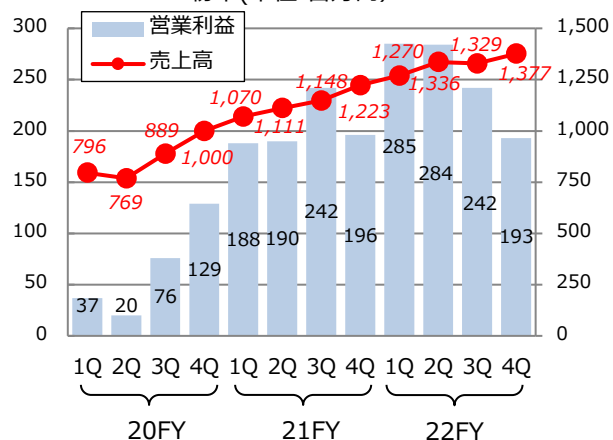
## 事業別損益推移

鋼材セグメントには  
Ovako決算期変更影響を含む

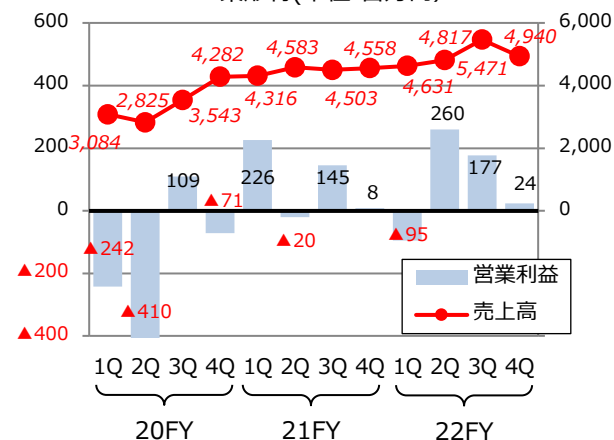
鋼材(単位:億円)



粉末(単位:百万円)



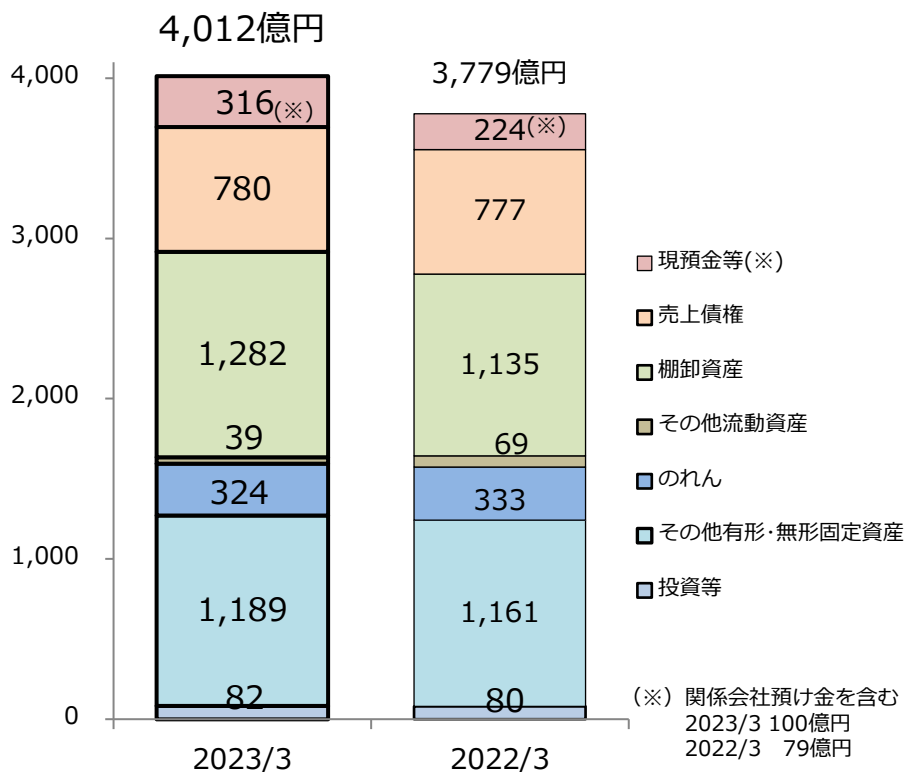
素形材(単位:百万円)



## 貸借対照表

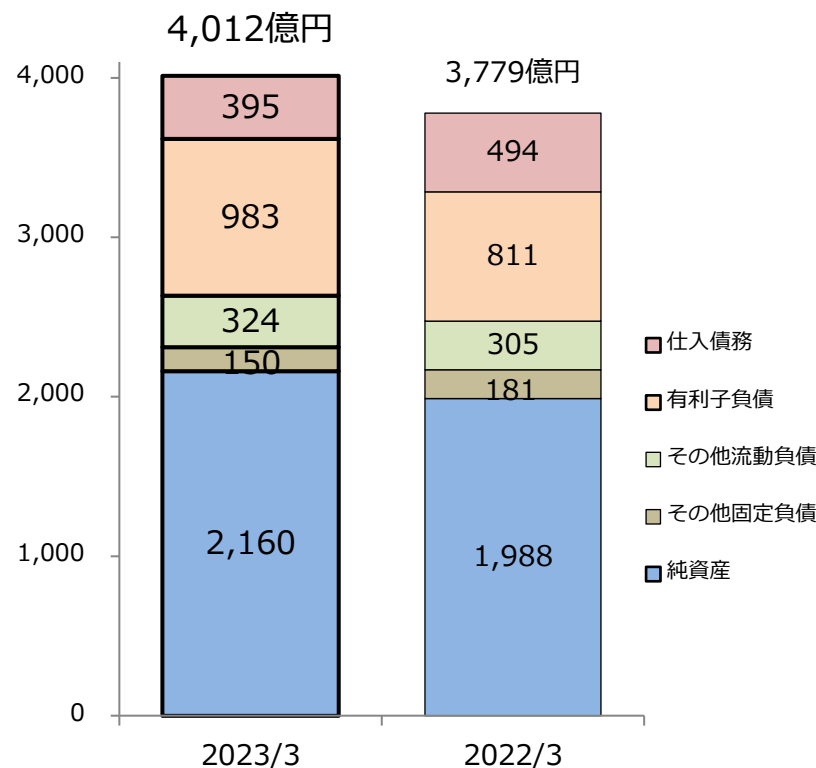
(億円)

## 資産



(億円)

## 負債・純資産



資産の主な増減 +233億円 (+6.2%) [内、為替影響+102億円]

現預金等 +92億円：収益増による増加  
 棚卸資産 +147億円：原燃料価格の上昇等による増加  
 のれん -9億円：償却 -29億円、為替影響 +20億円

負債・純資産の主な増減 +233億円 (+6.2%) [内、為替影響+102億円]

仕入債務 -99億円：一部仕入品の支払時期の早期化等による減少  
 有利子負債 +172億円：運転資金調達に伴う増加  
 その他固定負債 -31億円：退職給付に係る負債の減少  
 純資産 +172億円：利益剰余金+153億円 (税後利益+207億円、配当-54億円)

(参考)主要各社の総資産額(2023/3末:連結消去前)  
 当社 2,803億円 Ovako 1,258億円 SSMI 144億円

自己資本比率  
 2023/3末 53.4% 2022/3末 52.1%

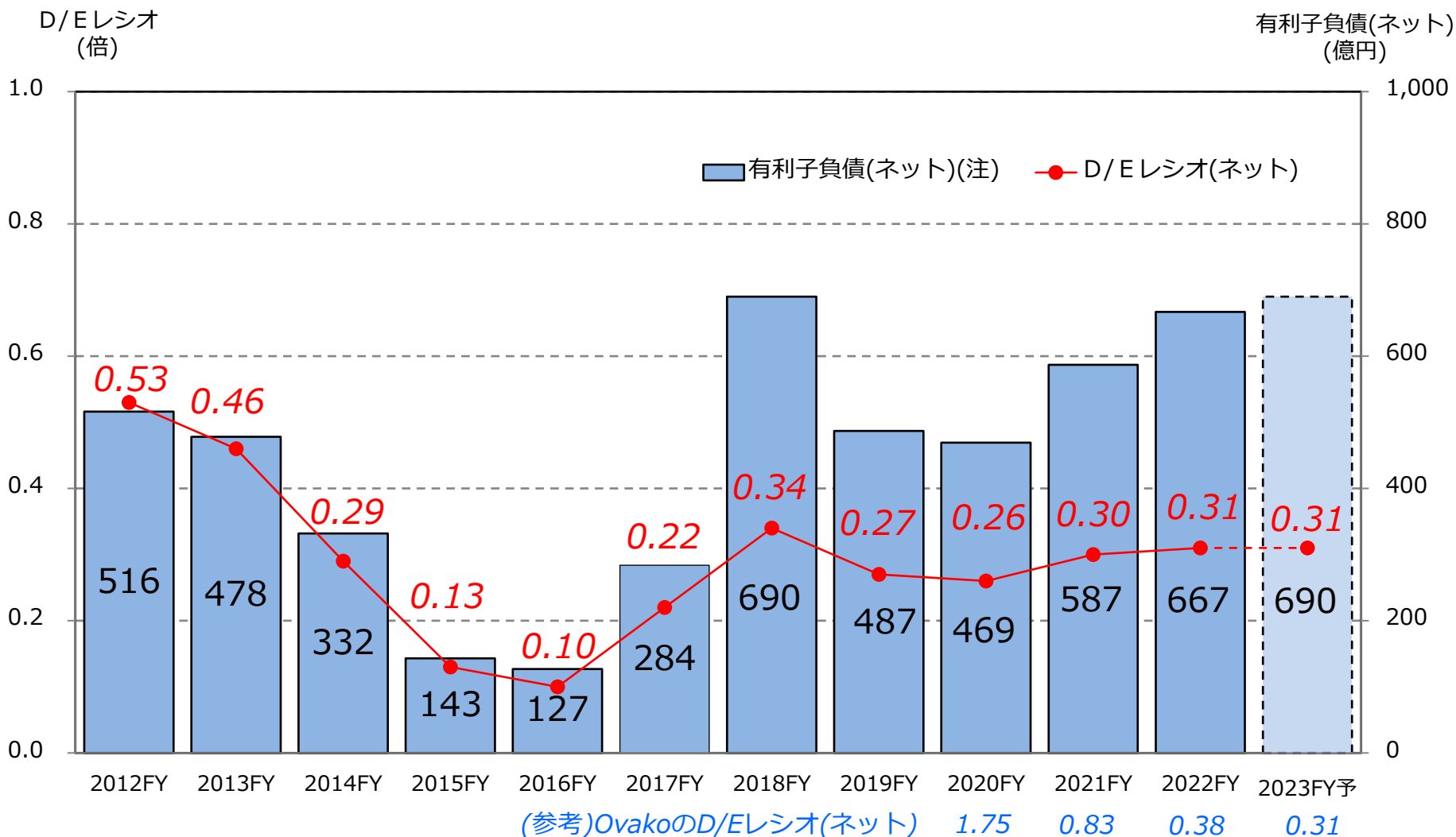
## キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2018FY	2019FY	2020FY	2021FY	2022FY
営業活動によるC/F (A)	108	394	223	71	122
税金等調整前当期純利益	200	160	112	403	447
EBITDA (簡便計算)	{ 104 96 }	{ △33 193 }	{ △95 207 }	{ 210 193 }	{ 280 167 }
減価償却費・のれん償却額					
法人税等の支払または還付	△33	△42	13	△4	△74
運転資金等	△60	276	98	△327	△251
投資活動によるC/F (B)	△690	△125	△194	△133	△128
設備支出	△91	△183	△189	△137	△131
子会社株式取得	△604	-	-	-	-
株式売却収入	1	22	3	6	0
その他	4	36	△8	△1	3
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	△583	270	29	△62	△6
財務活動によるC/F (C)	659	△211	△55	23	85
借入金・社債・CP・リース債務の増減	5	△164	△54	48	144
株式の発行による収入	671	-	-	-	-
自己株式の取得または売却	△0	△25	△0	△0	△0
配当金の支払	△23	△22	△0	△24	△55
その他	5	△0	△0	△0	△4
換算差額 (D)	△2	△4	2	9	12
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	75	54	△23	△30	91

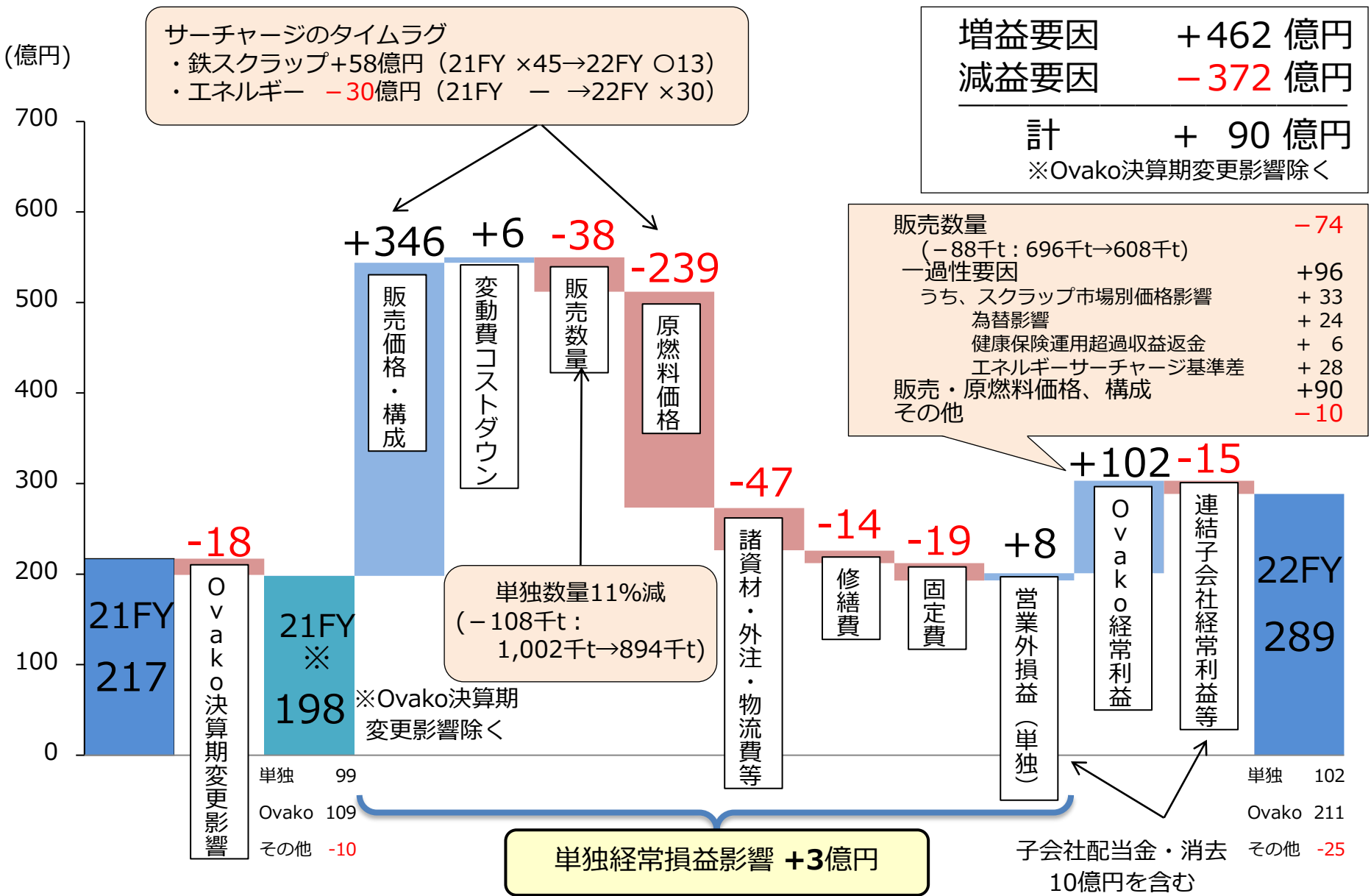
(注)キャッシュには関係会社預け金含む

## D/Eの推移



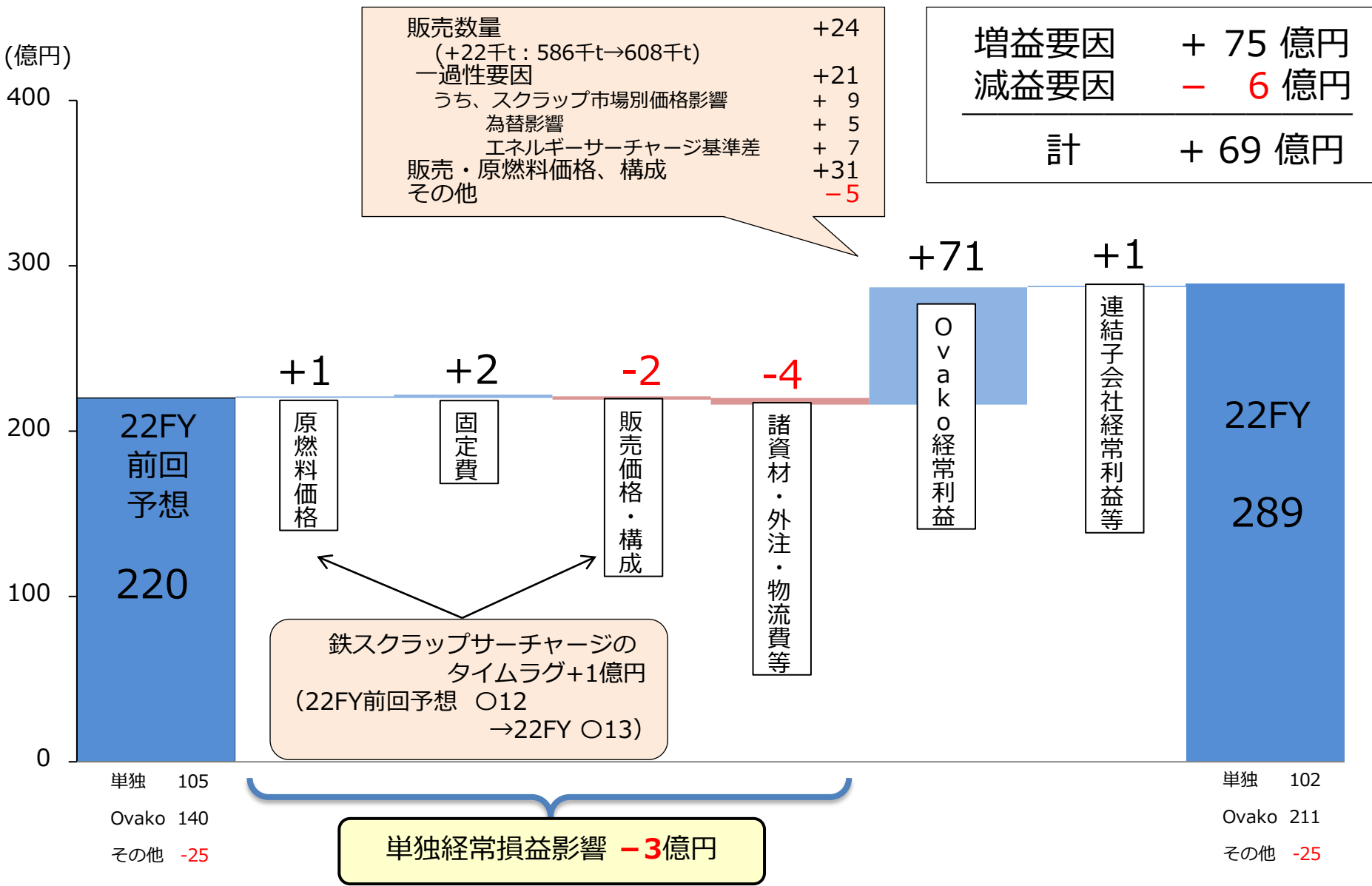
(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

# 経常利益の変化要因 (2021FY→2022FY)

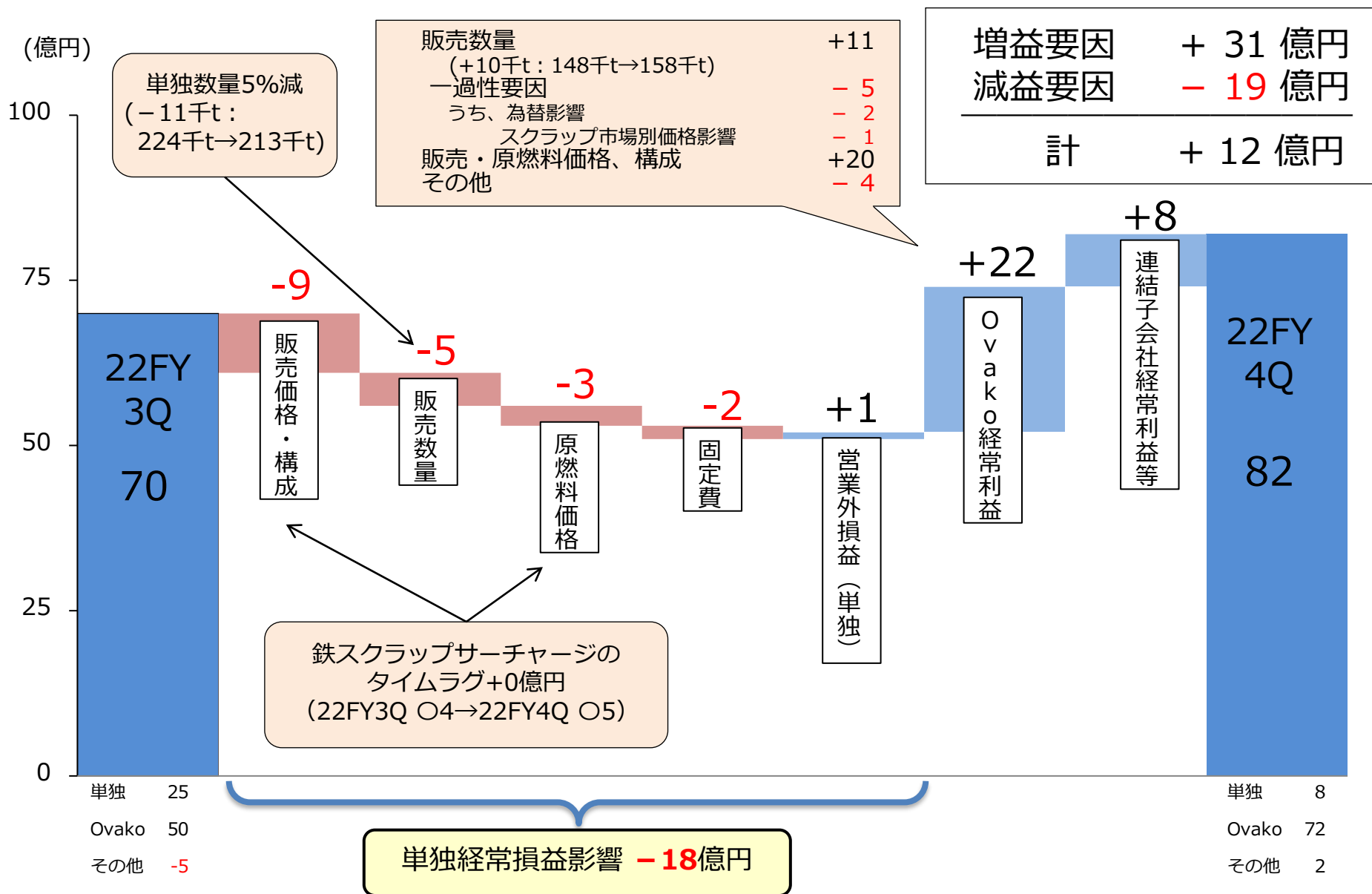




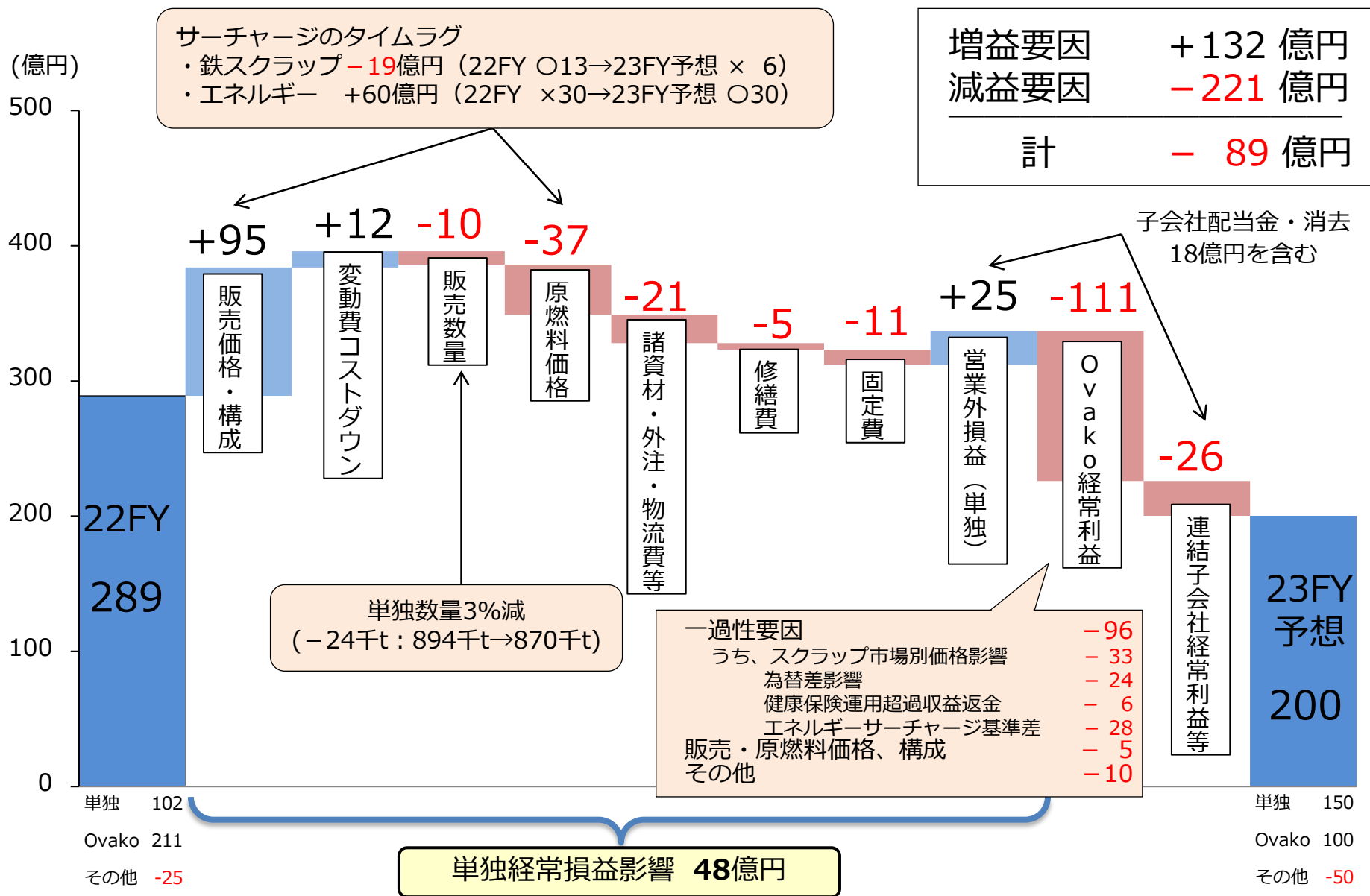
# 経常利益の変化要因 (2022FY前回予想→2022FY)



# 経常利益の変化要因 (2022FY3Q→2022FY4Q)



# 経常利益の変化要因 (2022FY→2023FY予想)



# Ovakoの状況

## 2022FY業績および2023FYの見通し

**2022FY：経常利益211億円(2021FY比+102億円※決算期変更影響除く)**

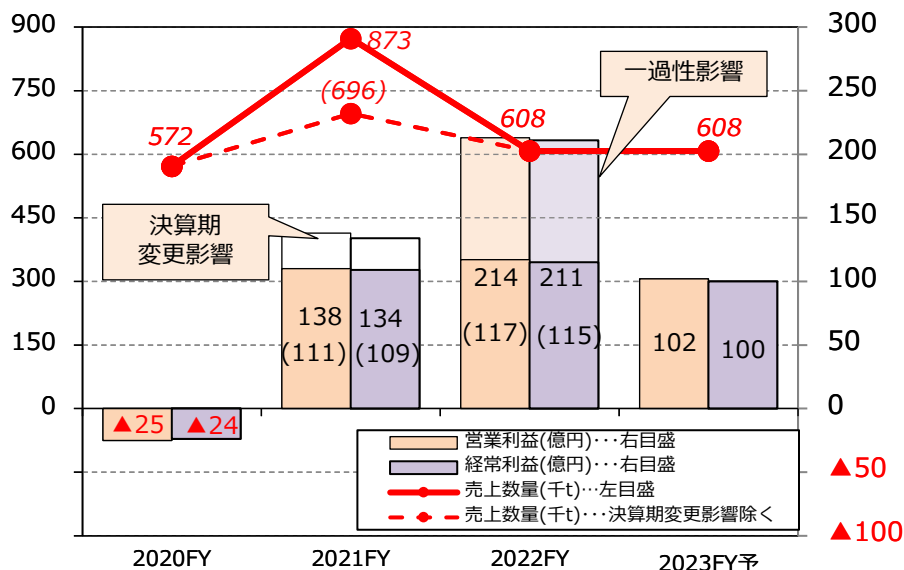
### 一過性影響を除く経常利益115億円

- ・ウクライナ侵攻の長期化に伴う需要減退影響はあるものの、**エネルギーサーチャージ導入等**によるマージン改善や、一過性影響による収益改善により前期比増益。

**2023FY：経常利益100億円(2022FY比-111億円、一過性影響を除くと-15億円)**

- ・**インフレ対応等値上げ**によるマージン確保および生産構造最適化の実行を通じた固定費のコントロールにより、一過性影響を除いた2022FY並みの損益達成を目指す。

## 売上数量、営業利益、経常利益推移



## 収益力強化の取り組みと3社連携

- ・収益力の強化
  - ▶ベース値上げ、気候サーチャージ、エネルギーサーチャージによるマージン改善
  - ▶ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
  - ▶固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る
- ・3社連携によるシナジー効果の発揮
  - ① 拡販活動の推進
  - ② 操業支援によるコスト削減
  - ③ 調達コストの削減

# SSMIの状況

## 2022FY業績および2023FYの見通し

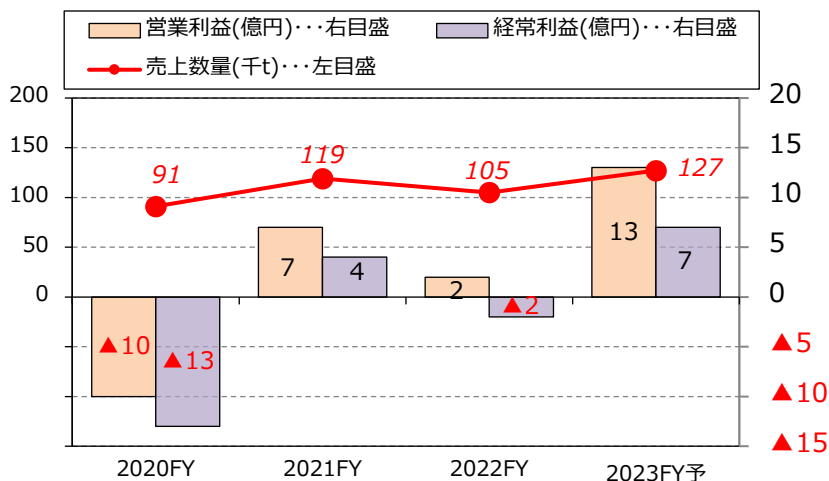
### 2022FY：経常利益▲2億円(2021FY比-6億円)

- 販売価格の値上げによるマージン改善などにより、下期は黒字となったものの、上期に原材料価格が高騰したことに加え、需要低迷を背景に、高収益分野を中心に販売数量が伸び悩んだことにより、通期は▲2億円の赤字となった。

### 2023FY：経常利益7億円(2022FY比+9億円)

- 高収益分野を中心にした販売数量の拡大に加え、安価鉄源の有効活用や電力コスト低減の取り組み、および生産工程の見直しなどによるコスト改善施策を遂行し、2023FYは7億円の黒字を計画。

## 売上数量、営業利益、経常利益推移



## 収益確保に向けた取り組み

- 営業基盤・営業体制の強化  
高纯净度技術を生かした営業戦略策定、  
拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善
- 変動費の削減  
エネルギー原単位改善や安価な鉄源や電力の有効活用による  
操業コスト・調達コストの削減
- 固定費の抑制

少数株主であるMahindra and Mahindra Limitedから、株主間協定に基づくプットオプション行使の通知を受け、2023年4月、同社が保有するSSMIの全株式を追加取得。当社の出資比率は80%に。  
出資比率の引き上げを通じて、生産、技術、人材、財務面等を一層強化することにより、中長期的な経済成長が見込まれるインドにおけるプレゼンスをより確固たるものとし、当社グループのグローバル展開の強化と更なる成長を図る。

# 5. トピックス

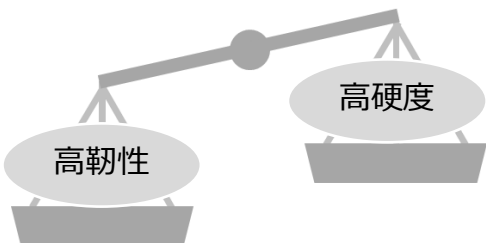
## トピックス

# (1)カーボンニュートラル社会へ貢献できる高炭素鋼「TOUGHFIT™」を商品化 (2023年3月30日公表)

高炭素鋼の“硬い一方で脆くなる”弱点を克服した革新的な高炭素鋼「TOUGHFIT™」を商品化。当社は今後、多様な分野への展開を図り、カーボンニュートラルを目指す需要家の皆様のニーズにお応えしていく。

## 従来鋼

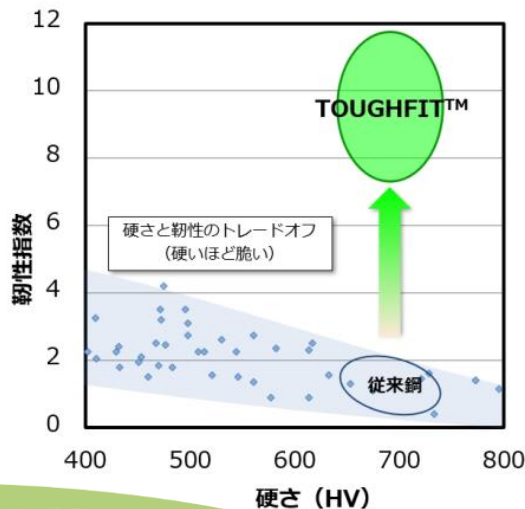
硬度(強度・耐摩耗性)を高めることにより靱性(耐割れ性、耐衝撃性)が低下すること(トレードオフの関係)が大きな弱点



産学連携  
による  
共同研究

## 開発鋼

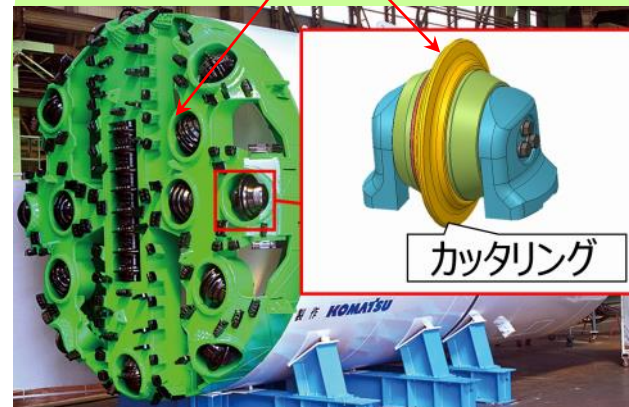
合金成分と熱処理条件の最適化によって、高硬度と高靱性を併せ持つことに成功



## 実用化事例

「TOUGHFIT™」開発に関わる産学連携の共同研究者であるコマツ殿は、トンネル掘削機のカッタリング用材料として本鋼を実用化。

TOUGHFIT™製カッタリング



コマツ製トンネル掘削機の外観とカッタリングの形状

## カーボンニュートラルへの貢献

### 部品の熱処理変革

「浸炭処理」を伴わない焼入れ熱処理で、靱性を損なうことなく硬度を高めることができ、部品製造工程におけるCO<sub>2</sub>排出を削減。

### 部品の高機能化

高硬度と高靱性を兼ね備えた「TOUGHFIT™」の適用で、部品の小型・軽量化設計による燃費向上を通じCO<sub>2</sub>排出を削減。

## トピックス

ESG

## (2) 「健康経営優良法人2023」に認定 (2023年3月9日公表)

当社は、「健康経営優良法人 2023」  
(大規模法人部門)に認定された。



## 健康経営への取り組み

- ・代表取締役社長を最高健康責任者とする健康経営体制のもと、施策のPDCAを実施。
- ・社員の生活習慣改善やメンタルヘルス不調の未然防止に向け取り組んでいる。  
例) 始業前のラジオ体操、ウォーキングイベント、運動セミナー実施

ESG

## (3) 「マルチステークホルダー方針」を公表 (2023年3月31日公表)

## 前提

企業経営においては、多様なステークホルダー(※)との価値共創が重要。  
マルチステークホルダーとの適切な協働により生み出された収益・成果を適切に分配することが、賃金引き上げのモメンタムの維持、経済の持続的発展につながる。

⇒従業員への還元や取引先への配慮が重要。

**取り組み** 詳細は当社発行の「山陽特殊製鋼レポート2022」参照。

- ①従業員への還元  
能力開発やスキル向上、適切な方法による賃金の引き上げ
- ②取引先への配慮  
パートナーシップ構築宣言の遵守
- ③その他のステークホルダーに関する取り組み  
経営理念「信頼の経営」を实践し持続可能な社会の実現に貢献

(※)株主にとどまらず、従業員、取引先、顧客、債権者、地域社会をはじめとしたあらゆるステークホルダー。



## トピックス

## (4)ダイバーシティ推進の取り組み

## 社外取締役と女性社員の対話（2023年1月～3月実施）

女性社員が魅力ある管理職の姿をイメージするきっかけづくりとして、社外取締役である藤原取締役と女性社員との座談会を計3回開催。

当社は、今後も女性社員からの率直な意見を出し合う場を設け活躍できる風土を醸成していく。

藤原取締役  
(独立社外)

## 「ひょうご女性活躍推進企業(ミモザ企業)」に認定（2023年3月10日公表）

当社は、性別に関わらず能力を発揮して働くことができる職場づくりを推進中。これまで、女性の積極的な採用や職域の拡大により活躍できる職場を増やすとともに、育児休業・短時間勤務など女性社員が継続して働くための支援制度を導入してきた。

これらの取り組みが評価され、当社は「ひょうごミモザ企業」に認定された。今後も、社員一人ひとりの成長とグループ発展に向け、多様な人材が集まり相互が発展的に作用する企業を目指す。

## ミモザ企業

兵庫県が県内企業の女性活躍の促進を目的に、「企業の取組姿勢」「キャリア形成支援」「女性の登用促進」「女性の定着促進」を柱とした認定項目において、一定の基準に達した企業等を認定する制度。



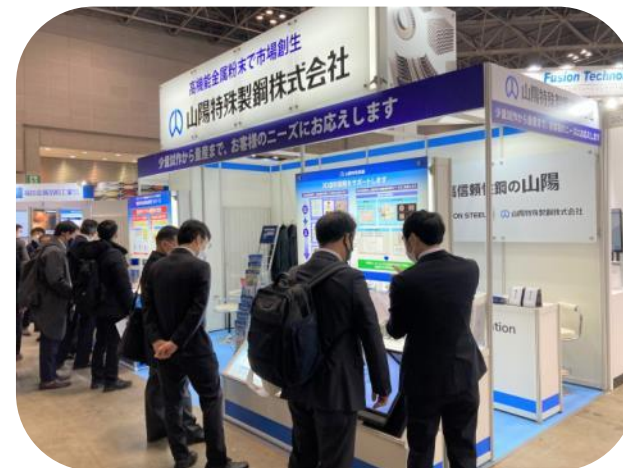
ひょうご  
女性活躍推進認定  
Mimosa certified company

## トピックス

その他

## (5) 展示会への出展

- ・ TCT Japan 2023 (2023年2月1日～3日)  
3Dプリンター用高機能ガスアトマイズ金属粉末  
「NOVASHAPE®シリーズ」などを展示。
- ・ 2022 China International Bearing Industry Exhibition  
(2023年3月7日～10日)  
日本製鉄・Ovako・当社の3社で共同出展。  
中国地場のベアリングメーカーをはじめ、各国の  
大手ユーザーも参加。



「TCT Japan 2023」当社出展ブース

## (6) 地域社会への貢献

ESG

文化振興財団が陸上教室を開催(2023年3月28日)

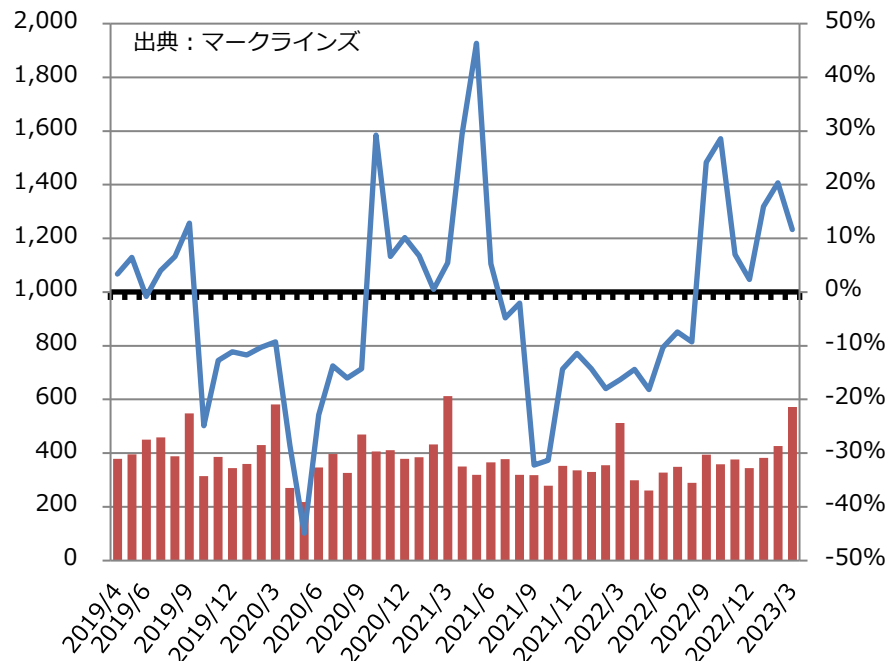
工業高校で特殊鋼に関する出張授業を実施  
(2023年1月23日)

## 6. 參考資料

# 自動車市場の動向

## 日本自動車販売台数 (前年同月比増減率)

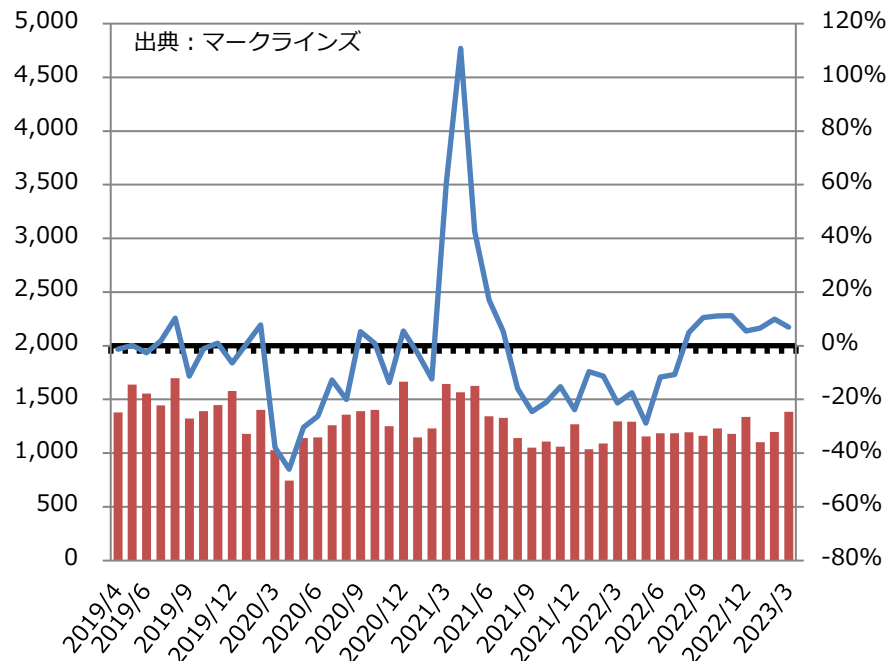
(台数：千台)



- ・ 2020/5を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/5：前年同月比 +46.3% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2023/3：前年同月比 +11.6%

## 米国自動車販売台数 (前年同月比増減率)

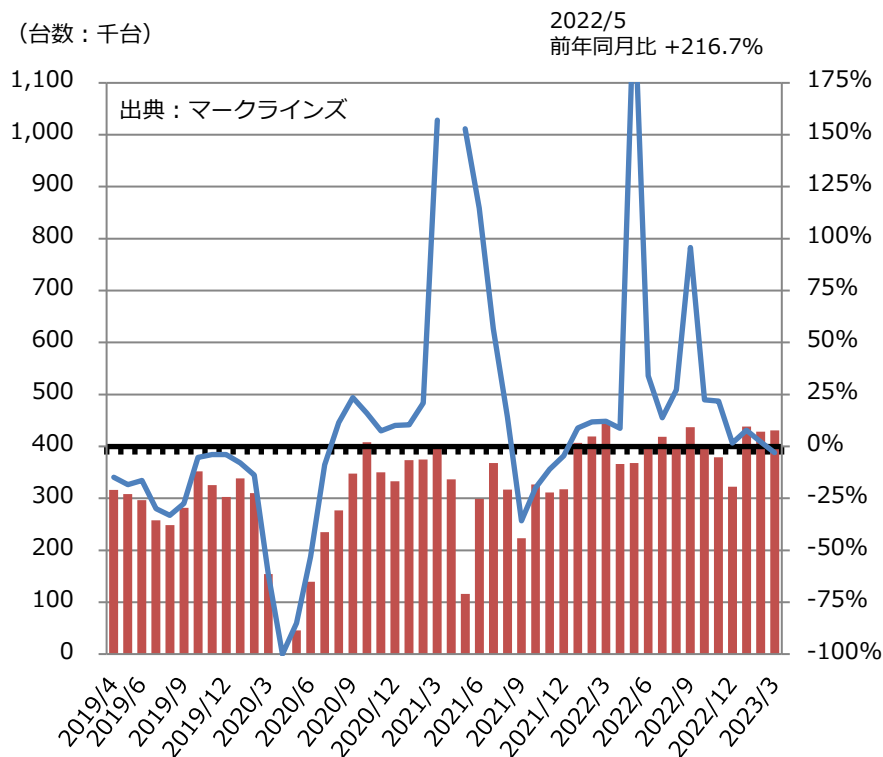
(台数：千台)



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/4：前年同月比 +108.6% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2023/3：前年同月比 +7.0%

# 自動車市場の動向

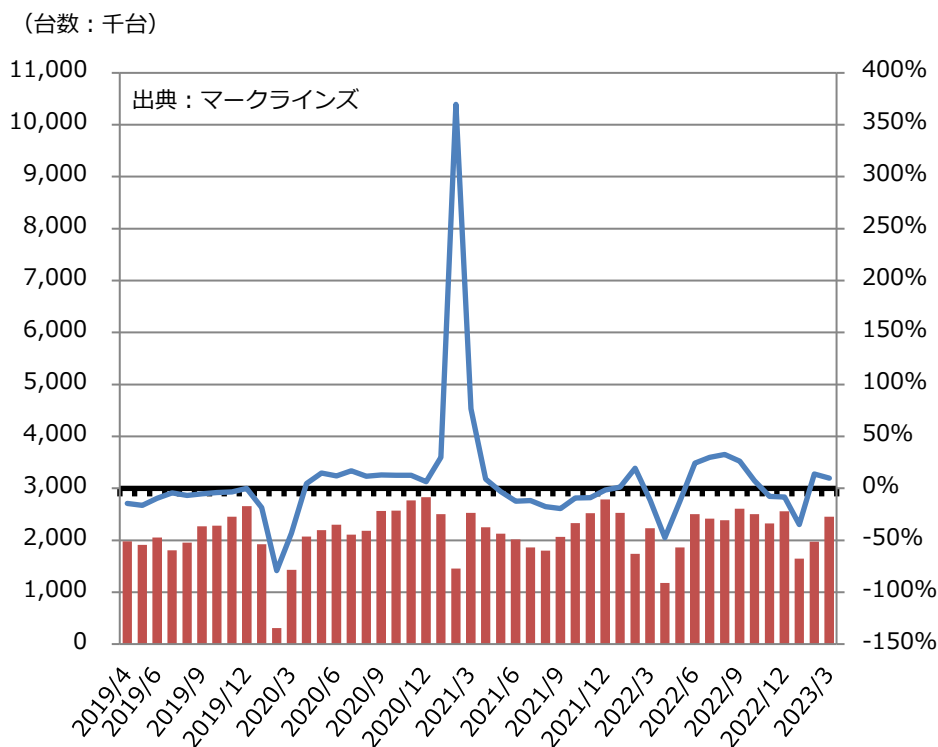
## インド自動車販売台数 (前年同月比増減率)



- ・2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・2021/5：新型コロナウイルス再拡大影響により一時的に落込みがあったもののその後回復傾向
- ・2023/3：前年同月比 -2.9%

## 中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース)

(前年同月比増減率)

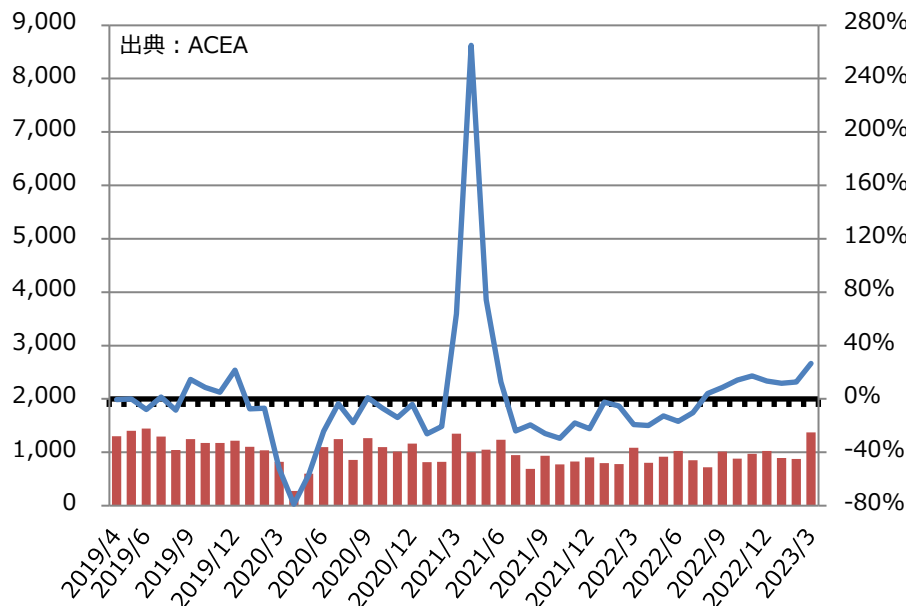


- ・2020/2を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・2021/6：世界的な半導体不足による自動車生産減少影響で前年同月比 -12.4%
- ・2022/4：新型コロナウイルスの感染再拡大の影響で -47.6%
- ・2023/3：前年同月比 +9.7%

# 自動車市場の動向

## 欧州自動車販売台数 (前年同月比増減率)

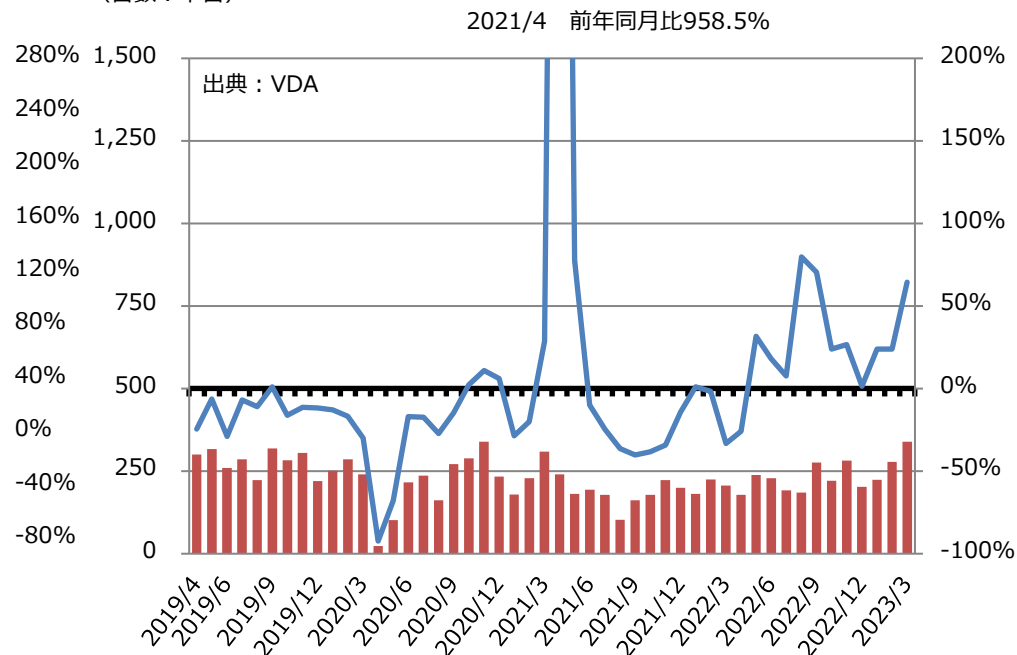
(台数：千台)



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +265.0%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2023/3 : 前年同月比 +26.5%

## ドイツ自動車輸出台数 (前年同月比増減率)

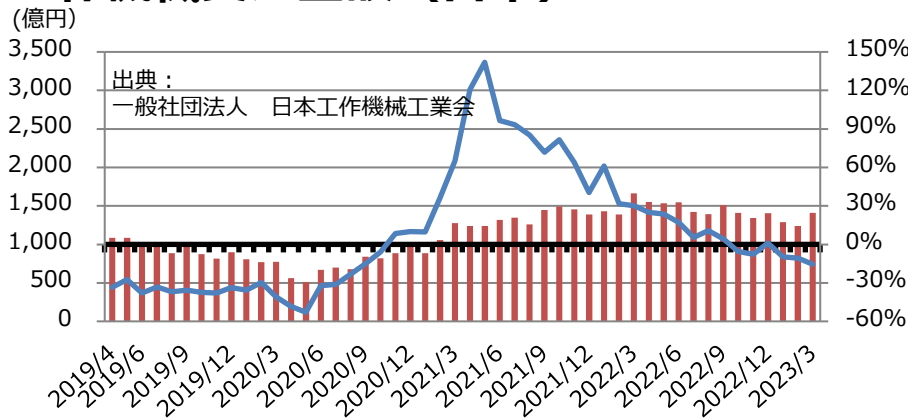
(台数：千台)



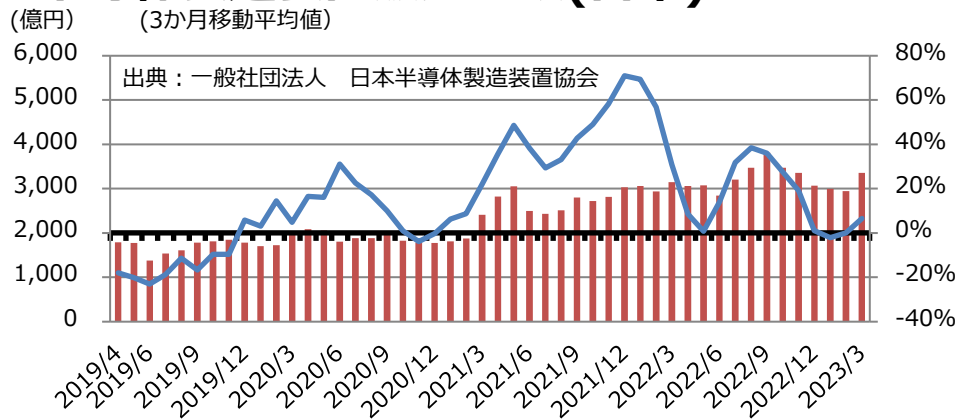
- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +958.5%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 以降、自動車減産等により、低位で推移
- ・ 2023/3 : 前年同月比 +64.4%

# 産業機械・建設機械市場の動向

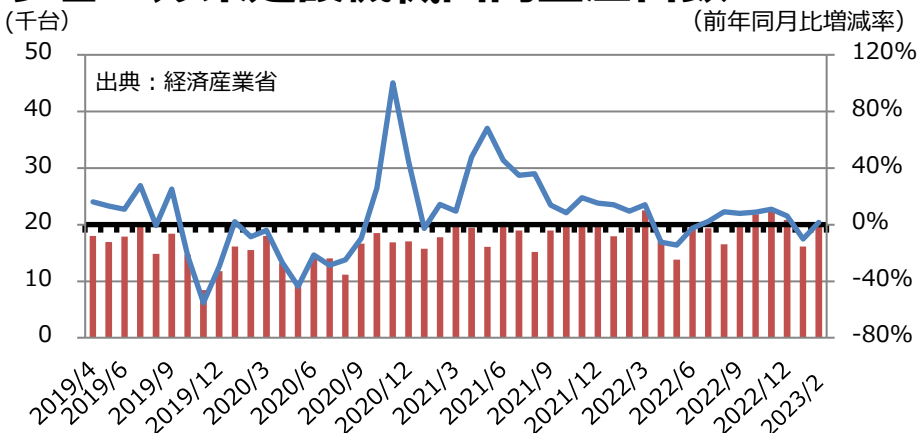
## 工作機械受注金額（日本）（前年同月比増減率）



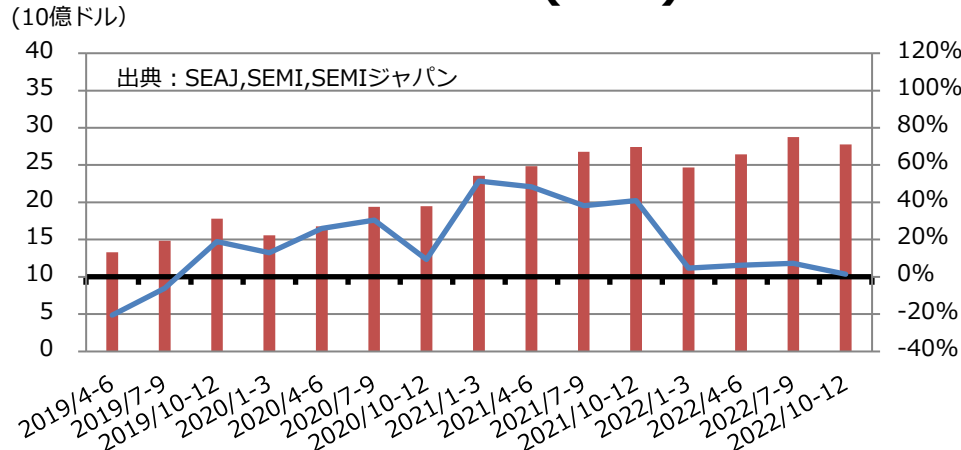
## 半導体製造装置販売金額(日本)（前年同月比増減率）



## ショベル系建設機械国内生産台数



## 半導体製造装置販売金額(世界)（前年同月比増減率）

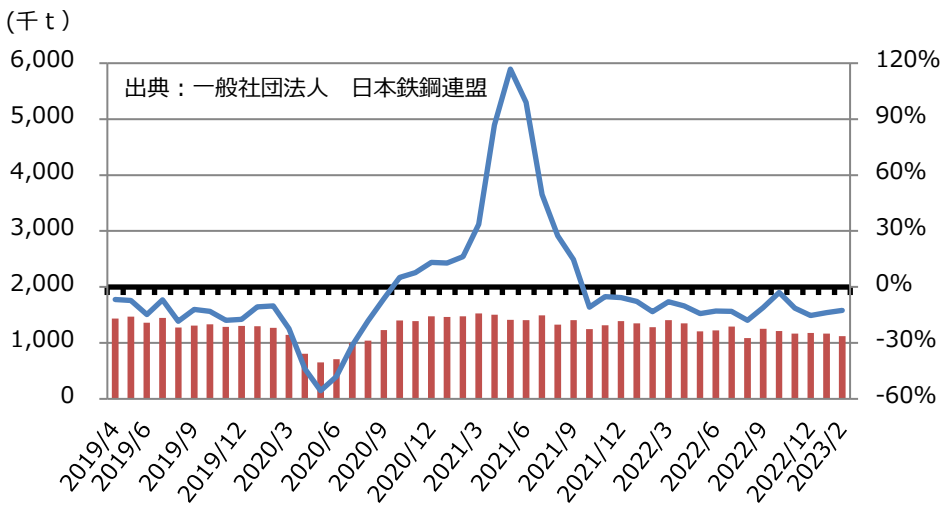


**工作機械** : 新型コロナウイルス影響で2020/5に前年同月比-53%まで下落。足元では同-15.3%  
**半導体製造装置** : 2020/7以降、米中貿易摩擦の影響で日本では前年同月比減少傾向  
 2020/12以降は、5G普及による需要増、世界的な供給不足に伴うメーカーの増産投資意欲の高まりで回復  
 2023/3は前年同月比+6.5%  
**建設機械** : 2020/2以降は新型コロナウイルス影響で前年同月比でマイナス推移  
 2020/10以降は中国や欧米での需要回復と前年の反動で前年同月比プラス  
 2023/2は前年同月比+1.8%

# 特殊鋼需要の動向

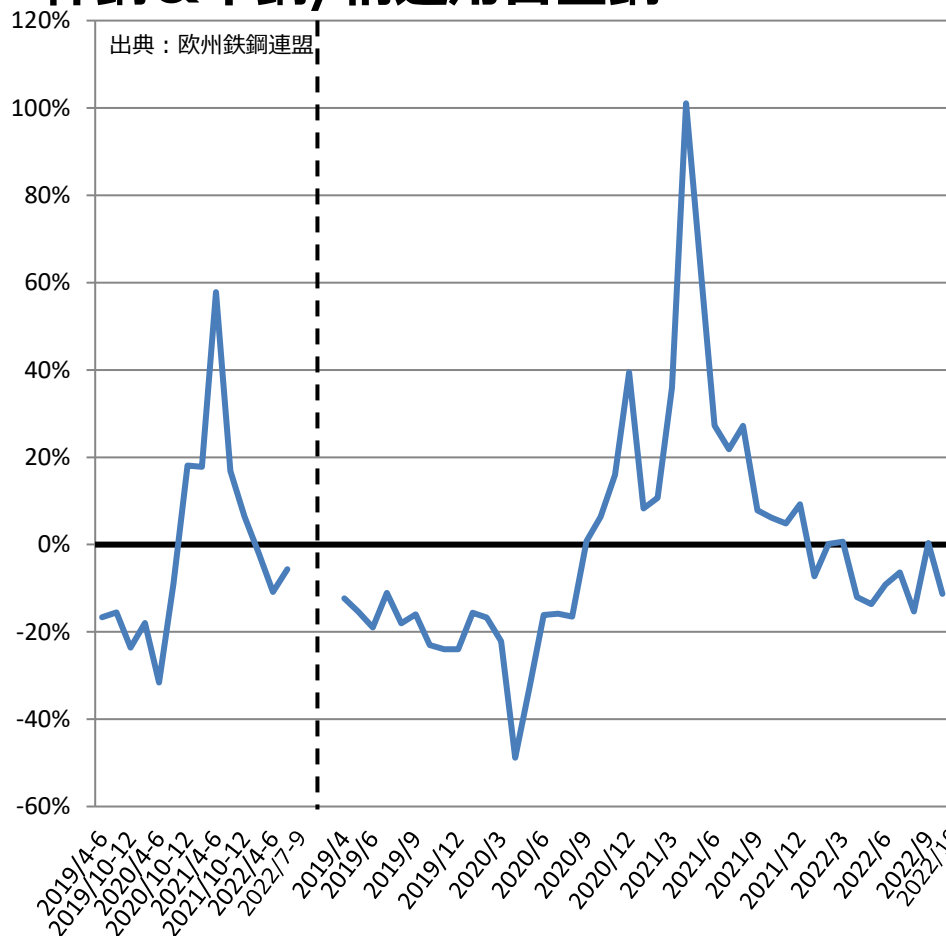
## 日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）

(前年同月比増減率)



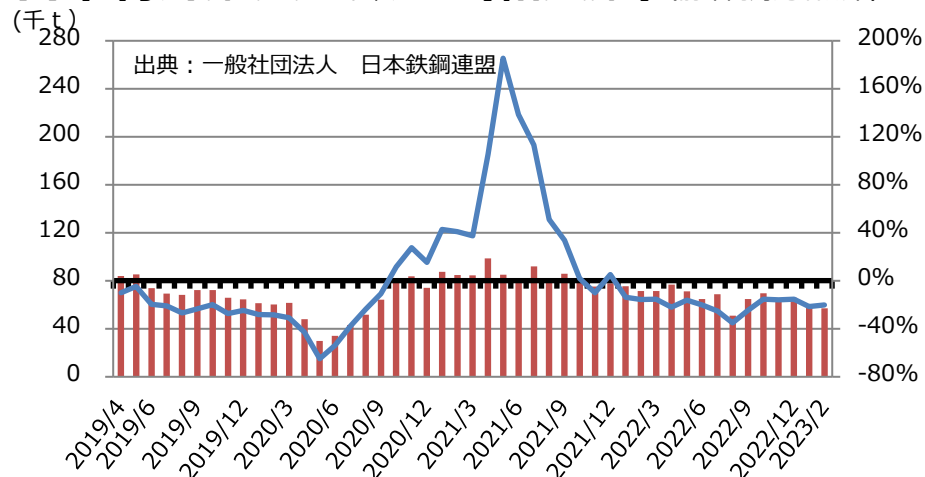
## 欧州デリバリー数量 棒鋼&平鋼/構造用合金鋼

(前年同月比増減率)



## 日本特殊鋼受注数量（軸受鋼）

(前年同月比増減率)

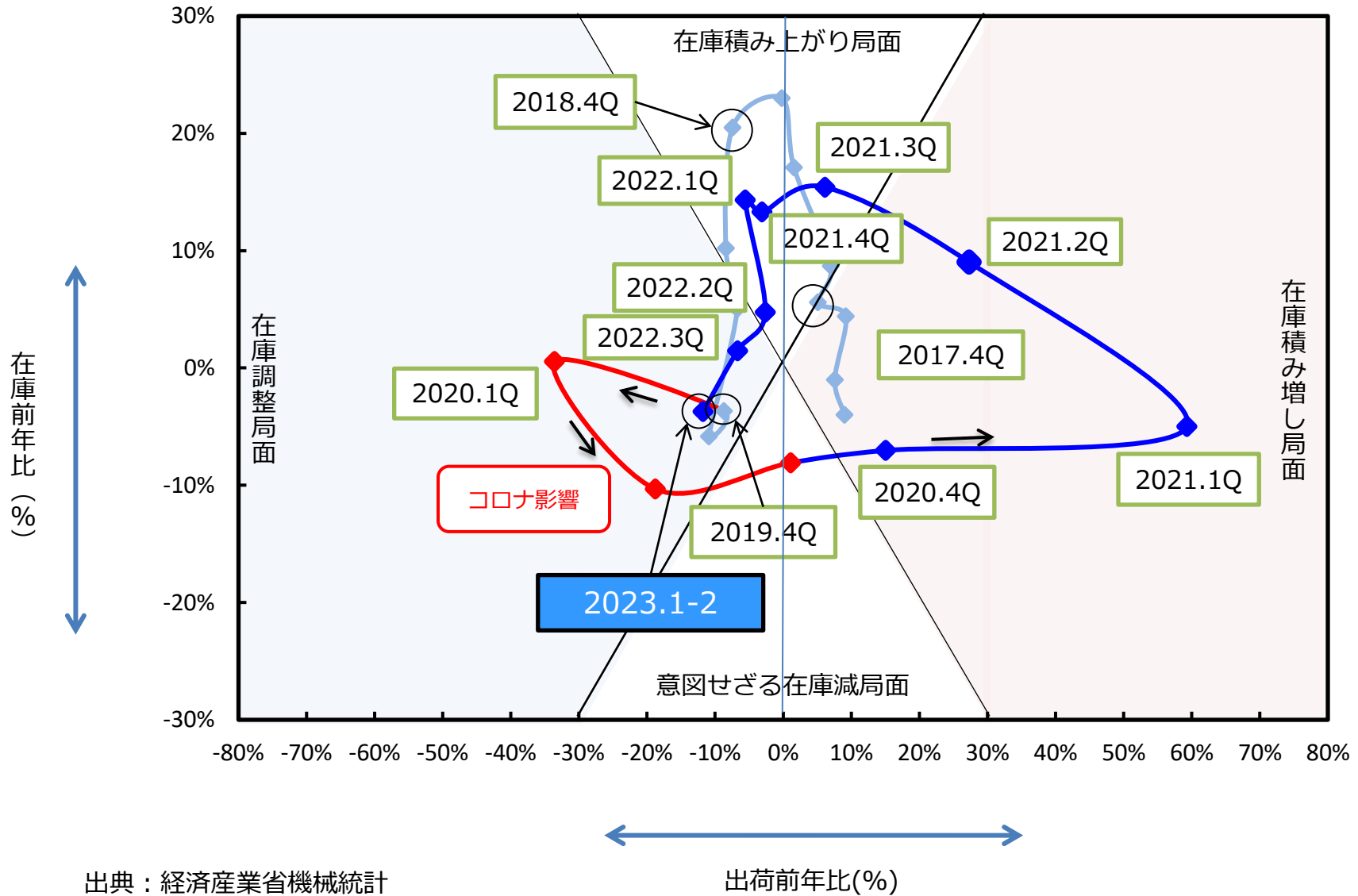


欧州デリバリー数量は2020/4に底打ち  
2021/4は前年同期大幅減の反動で前年同月比 +101.0%  
2022/10は前年同期比で -11.3%

軸受鋼は、2020/5を底に新型コロナウイルス影響から回復  
足元、自動車減産、在庫調整影響が現出  
2023/2は前年同月比 -20.3%



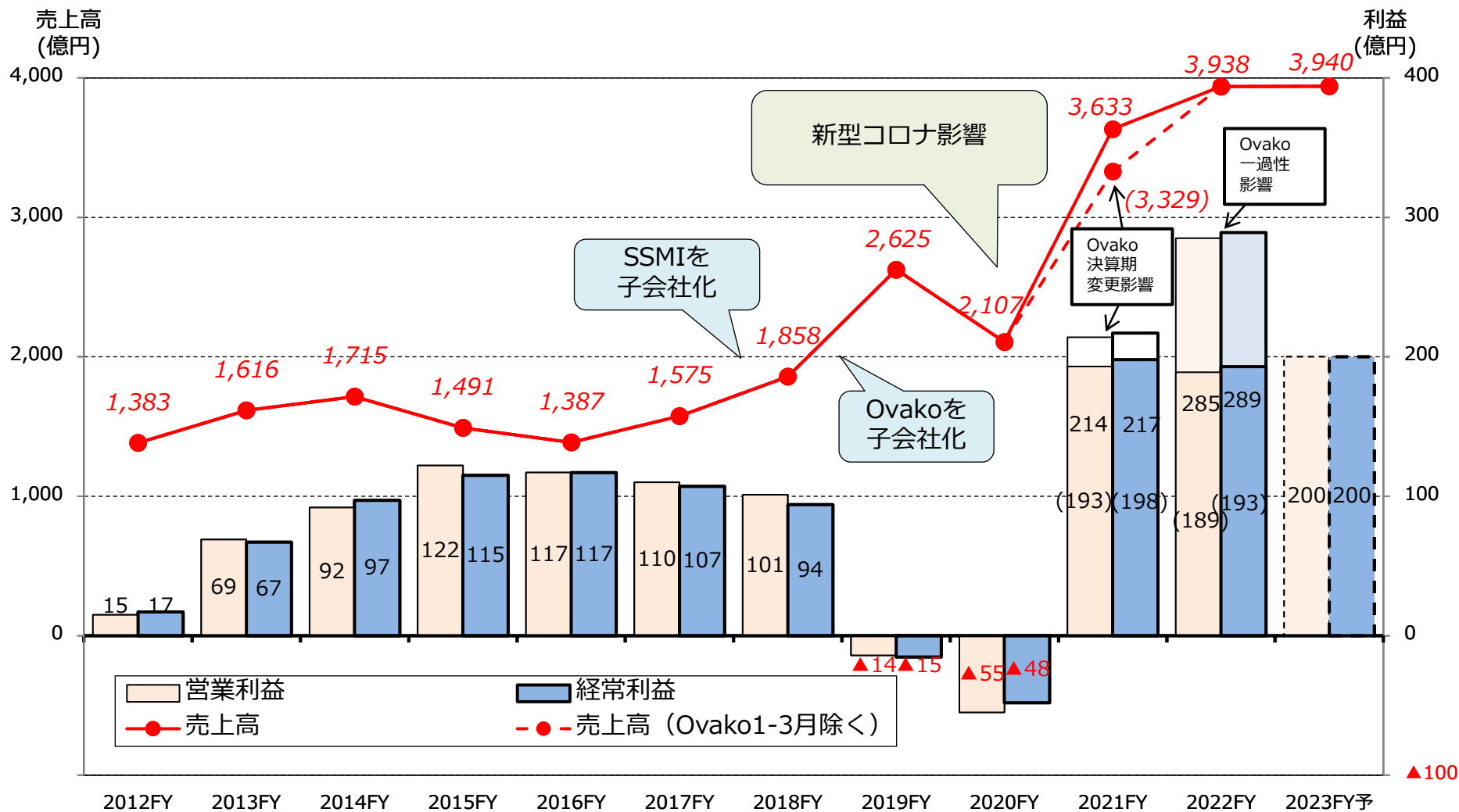
# 軸受在庫循環図



出典：経済産業省機械統計

出荷前年比 (%)

# 業績推移(年度)

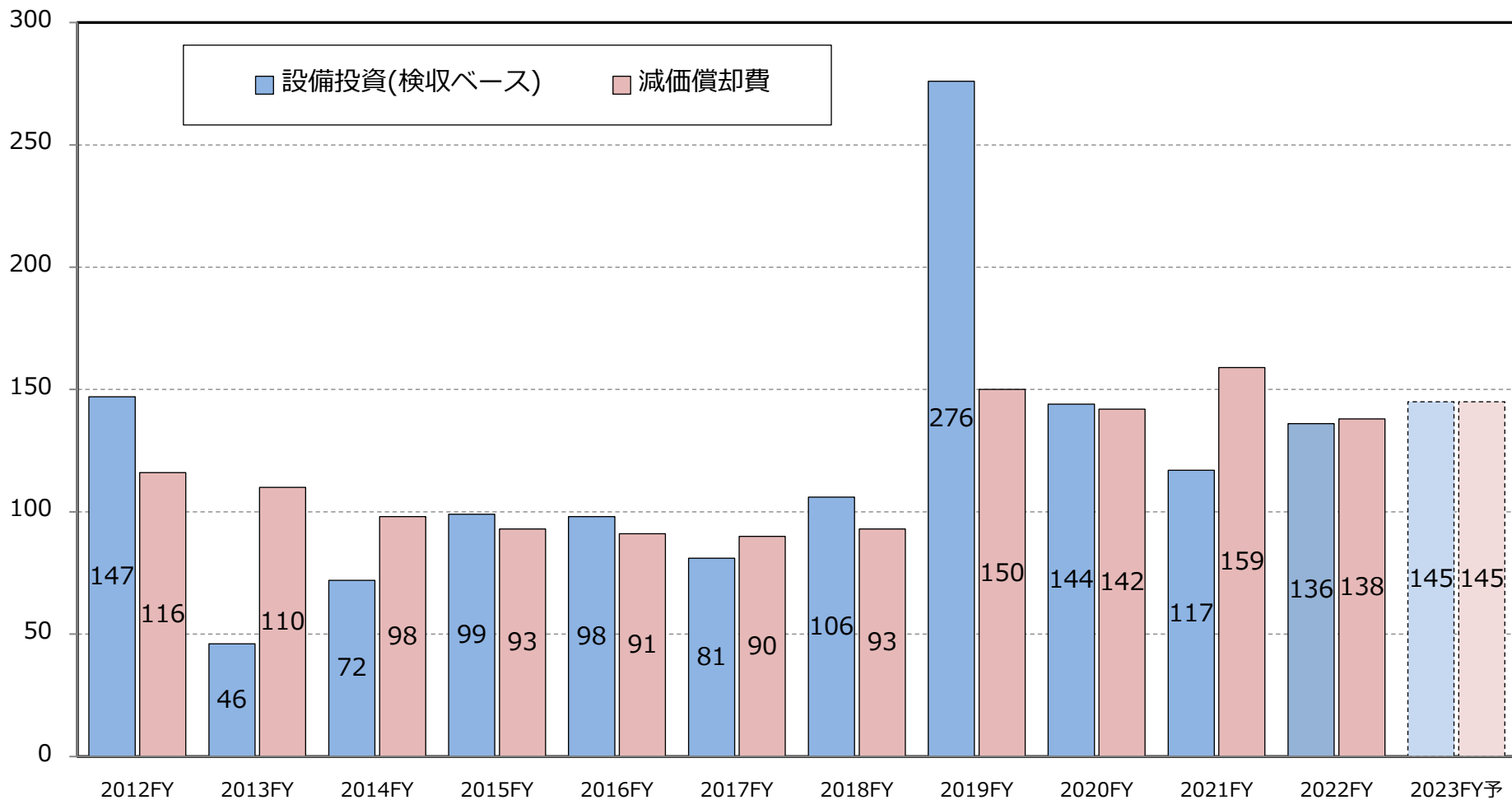


(注1) 2021FYのOvakoおよびのれん償却費は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値。

(注2) SSMIは2018FY2Qから、Ovakoは2019FY1Qから損益を連結。

# 設備投資・減価償却費の推移

(億円)



# 損益の詳細 (対2021FY)

(単位：千t、億円、円/株、%)

	22FY上期 (A)	22FY下期 (B)	2022FY (C)=(A)+(B)	2021FY (D)	増減 (C)-(D)	増減率 (%)
売上数量	812	795	1,607	1,995	-387	-19.4
内、当社単独	458	436	894	1,002	-108	-10.8
内、Ovako	303	305	608	873	-265	-30.4
内、SSMI	51	54	105	119	-14	-11.9
売上高	1,954	1,984	3,938	3,633	+306	+8.4
内、当社単独	965	967	1,932	1,688	+244	+14.5
内、Ovako	857	854	1,711	1,709	+1	+0.1
内、SSMI	99	117	216	173	+43	+24.7
営業利益	132	153	285	214	+71	+33.0
内、当社単独	53	33	87	92	-5	-5.5
内、Ovako	88	125	214	138	+75	+54.5
内、SSMI	▲1	2	2	7	-5	-75.2
内、のれん償却費	▲14	▲15	▲29	▲34	+4	-
経常利益	137	151	289	217	+72	+33.2
内、当社単独	70	33	102	99	+3	+2.6
内、Ovako	89	122	211	134	+77	+57.4
内、SSMI	▲2	0	▲2	4	-6	-
内、のれん償却費	▲14	▲15	▲29	▲34	+4	-
税後利益(注3)	99	109	207	153	+55	+35.9
1株当たり税後利益	181.2		380.7	280.2	+100.5	+35.9
のれん償却費を除く営業利益	146	168	314	248	+66	+26.7
のれん償却費を除く経常利益	152	166	318	250	+67	+26.9
のれん償却費を除く税後利益	113	124	237	186	+50	+27.0
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	207.5		434.4	342.1	+92.3	+27.0

(注1) Ovakoおよびのれん償却費：2022FYは2022年4月～2023年3月の12カ月の数値、2021FYは2021年1月～2022年3月の15カ月の数値

(注2) SSMI：1月～12月の数値 (注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

# 損益の詳細 (業績予想)

(単位：千t、億円、円/株)

	23FY上期 予想(A)	23FY下期 予想(B)	2023FY予想 (C)=(A)+(B)	2022FY (D)	増減 (C)-(D)
売上数量	760	845	1,605	1,607	-2
内、当社単独	426	444	870	894	-24
内、Ovako	274	334	608	608	-
内、SSMI	60	67	127	105	+22
売上高	1,860	2,080	3,940	3,938	+2
内、当社単独	940	1,000	1,940	1,932	+8
内、Ovako	760	910	1,670	1,711	-41
内、SSMI	120	140	260	216	+44
営業利益	62	138	200	285	-85
内、当社単独	35	75	110	87	+23
内、Ovako	28	74	102	214	-112
内、SSMI	6	7	13	2	+11
内、のれん償却費	▲14	▲14	▲29	▲29	+0
経常利益	63	137	200	289	-89
内、当社単独	72	78	150	102	+48
内、Ovako	27	73	100	211	-111
内、SSMI	3	4	7	▲2	+9
内、のれん償却費	▲14	▲14	▲29	▲29	+0
税後利益(注2)	40	100	140	207	-67
1株当たり税後利益	73.4		256.9	380.7	-123.8
のれん償却費を除く営業利益	76	152	229	314	-85
のれん償却費を除く経常利益	77	152	229	318	-89
のれん償却費を除く税後利益	54	114	169	237	-68
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	99.1		310.2	434.4	-124.2

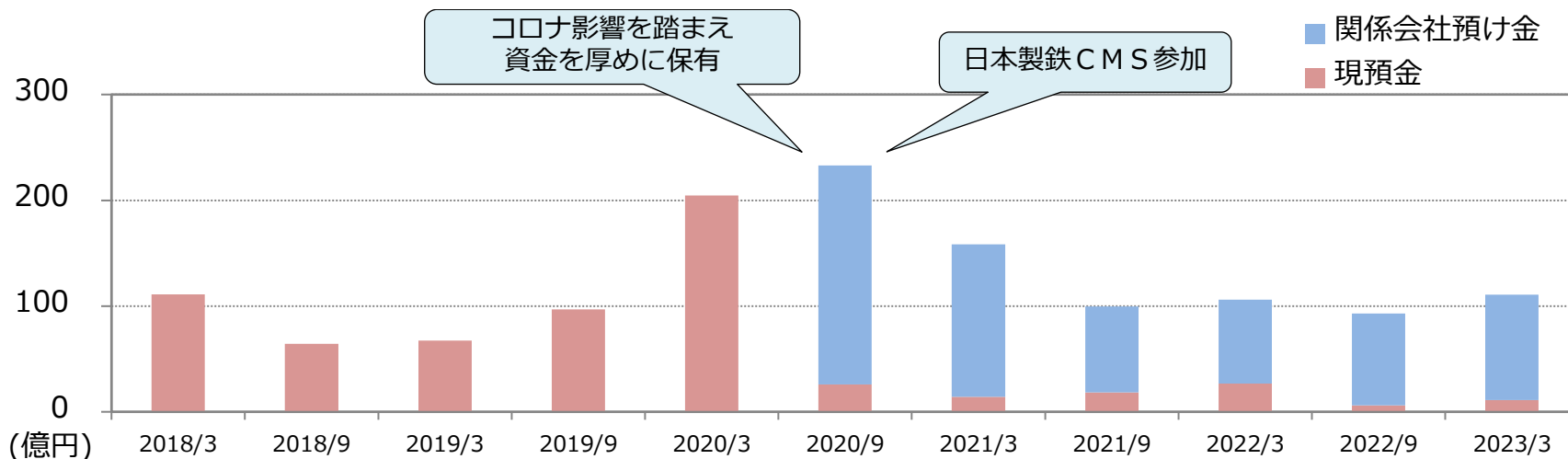
(注1) SSMI：1月～12月の数値

(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

# 関係会社預け金について

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み（資金のセーフティーネットとして機能）。
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、**従来の現預金という性質には変わらない。**

## 関係会社預け金を含む現預金等の推移（単独）



## 未来への信頼を担う

当社の掲げる「信頼の経営」は地球環境の未来を担う。その思いを大切に、山陽特殊製鋼はこれからも躍進を続けます。



## SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



「さんとくん」  
(当社キャラクター)